統計茨城

目　次

昭和37年度茨城県統計大会盛大に開かる……1
新旧課長あいさつ……2
統計図表全国コンクールに入選して……3
市町村民生活一覧表に就て……加地成雄…4～5
統計教育中間発表会を終つて……諸川小学校…6～7
家計調査結果……8～9
最近の麻薬取締から……10～11
毎月勤労統計調査結果速報（8・9月）……12～17
全国統計大会高知県民ホールで開かる……18～20
グラフにみる……21
統計資料案内……22～23
経済スポット……24～25
市町村の横顔（水戸市）……26
人間雑話(7)……27

茨城県総務部統計課
茨城県統計協会

昭和37年度

茨城県統計大会盛大に開かる

昭和37年度茨城県統計大会は11月5日，茨城会館に，来賓はじめ統計関係者約700人を集め，盛大に挙行された。

3日は文化の日，4日は日曜日と折角の連休も雨にたたられたが，大会当日は，うつて変つた秋晴れの好天候に恵まれ，会場には朝早くから，セーラー服姿の図表コンクール入選者をはじめ参加者がつめかけ，開会時刻の10時には予定された参加者は全員集まつた。

大会は午前8時30分から受付が始められ，定刻10時には，満堂を埋める統計マンの割れるような拍手のうちに司会者から「大変お待たせいたしました。只今より根本統計課長に開会のことばをお願いいたします。」つづいて根本統計課長から「本日は早朝から御苦労様でした，只今から昭和37年度茨城県統計大会を開催いたします。」という言葉で大会の幕は開かれた。

これに次いで主催者として岩上知事が「統計の発展は戦後とみに顕著なものがあり，統計のもつ役割はきわめて大きなものがあります。平素みなさま方のたゆみないご努力により，正確迅速に統計が作成され，中央地方の行政施策に，あるいは企業経営に資されておりますことは，施政の一端をになう者として心から感謝申し上げます。今後も一層ご研鑽のうえ統計の発展にお尽くし下さいますよう念願いたします。」というあいさつがあつたのち，盛り沢山の大会行事がつぎつぎと繰り展げられた。

表彰は統計功労者ならびに団体に対し，各省表彰，全国統計協会連合会長表彰，知事表彰および茨城県統計協会総裁の順に行なわれ，つづいて第13回茨城県統計図表コンクール入選者ならびに優秀校に対してそれぞれ表彰が行なわれた。

表彰につづいて，行政管理庁統計基準局長はじめ，県議会議長，町村会長，都県代表，教育長など多数の方々から来賓祝辞が述べられたのち，祝電披露が行なわれた。

つづいて統計功労者代表として福田武男さんから「近代社会においては，あらゆる分野において統計を利用し物事を科学的に考えるようになり，私達の仕事がいかに重大な役割を持つているかを痛感すると同時に，さらに新しい意欲に燃え，この仕事に誇りと自信とを堅持し，今後益々統計知識の研鑽に努力します。」との謝辞が述べられ，また統計図表コンクール入選者を代表して結城市立上山川中学校菊山重代子さんが「私達は，統計図表の持つ意義を充分自覚し，夏休み中先生方の御指導のもとに，汗を流しつつ作品をつくりあげました。もとより未熟な作品でありましたのに，このように盛大な大会の席上表彰を受けましたことを，終生忘れることはできません，今後統計についてより感覚を新たにし，これを日常生活に生かし，益々努力を続けたいと思います。」という謝辞があつた。

引続いて本県では初の試みとして統計関係者の体験発表が行なわれ，はじめに阿見町長池田静喜さんが「統計を活用した町政」と題し，また結城市統計係長宮田良二さんは，10余年の間統計事務を担当し，その間の苦心談や喜びを発表され，ついで常陸太田市統計調査員斎藤秀夫さんが，第一線で働く調査員として経験したことから調査事項の簡素化，調査時期，調査員の訓練，調査員手当の問題等について発表があつたが，いづれも持時間を超過するほどの熱弁で，来賓の方々も熱心にメモをとつておられた。

大会もいよいよ大詰，日立市庶務課長吉田稔さんが，参加者一同を代表して，統計マンの決意を新たにした。宣言文の朗読を行ない，満場の拍手をもつて賛同を得た。

最後に阿見町長さんの発声で万才三唱が行なわれ，盛会裡に大会の幕を閉じた。

大会終了後，茨城県警察音楽隊の吹奏楽と磯節保存会の民謡と踊があり，会場はくつろいだ雰囲気に包まれ，吹奏楽団のリバイバルメロデーをはじめ荒城の月などの名曲が次々と演奏され，聴衆をうつとりとさせた。磯節保存会の民謡は，さすがに保存会だけあつて，歌といい踊といい素晴しいもので参会者を心ゆくまで楽しませてくれた。

離任のことば

根本倉吉

このたび，拓務課に転勤を命ぜられ，思い出多い統計課を去ることになりました。

私が統計課長として，また茨城県統計協会副会長として就任いたしましたのは，去る34年10月13日でありました。それから約３年の間，統計行政や，統計協会の業務を運営するにあたり，皆様方のおしみないご指導ご鞭撻をいただき，お蔭様で大過なくすごさせていただきましたことを，誌上をかり厚く御礼申し上げます。

じつと瞼をとじますとかずかずの思出が走馬灯のように浮んでまいります。昭和35年国勢調査，1960年世界農林業センサスなどの大調査をはじめ，事業所統計調査，商業統計調査など数多くの統計調査が，あいついで行なわれ，まことにあわただしい三カ年でありました，それだけに思い出深いものがあります。

各種統計の調査員の方々をはじめ，市町村当局の格別のご尽力，更に関係皆様方の深いご理解により，予期以上の成果をおさめることができましたことは，私の最も喜びとするところであり，心から感謝申し上げます。

また，統計協会の事業につきましても，年々活発化し，ことに昭和36年には，本県では初めての試みといたしまして県勢要図を出版いたしましたところ，利用者各位よりおほめの言葉をいただき，予期以上の好結果をみましたことも，これ一重に市町村ならびに小，中学校の関係皆様方のご協力とご支援の賜物と存じます。

日進月歩の今日，統計のはたす役割は極めて大きなものがあり，今後ますます利用の範囲は広げられると思います。どうか皆様方には，国及び地方自治体の発展と統計界の向上のため，一層ご精進下さいますよう心からお祈り申し上げます。

おわりに，統計課をはなれましても今後とも相変らずご厚誼を賜わりますようお願いいたしまして，別れのあいさつといたします。

就任のことば

海野幸次郎

十二月一日付をもつて，県統計課長を命ぜられ，又同日県統計協会の副会長に就任することになりました。本誌上を通じて就任のご挨拶を申しあげます。

統計調査の事務は，行政の内面の事務であつて，地味な仕事でありますが，近年統計に対する理解と認識が，高まつて来ており，その活用もまた日をおうて増大しておりますことは，今更申しあげるまでもありません。

即ち，経済情勢の伸長や，人間社会の諸般の状勢の移り変りにつれて，国や地方公共団体は，これら状勢の推移に対処するため，行政上の施策を断えまなく樹てております。又民間の企業における各般の施策も同様に，何れも，科学的，合理的な基礎に基いて調査された統計資料の活用にまつところ極めて多く，また逐年増大している事実は，統計が広く理解され，社会のために大きな役割を果していると言えるのであります。従つてその意義は極めて深いものを感じます。

統計に関する組織，調査集計の方法，調査の内容及び資料の編さん，保存等に至るまで，戦後急速に整備充実されつつありますことは，先輩各位の携まざる努力によつて築かれた成果でありまして，ここに深甚な敬意を表するものであります。

唯，私はこのような重責を果し得るかどうか，いささか不安を感じております。

しかしながら，幸い，市町村当局の格別なご協力と，統計に関し，特に貴重な経験と，豊富な知識を備えた皆様方のご指導とご鞭撻をいただけることを期待し，誠に微力ではありますが，本県統計の進展のため，最善の努力を尽したいと念願いたしておりますので，先輩各位に寄せられたと同様の，ご支援とご協力を賜わりますよう，切にお願い申しあげて就任の挨拶といたします。

統計図表全国コンクールに入選して

結城市立上山川中学校　3年
菊　山　重　代　子

私たち二人が全国コンクールで1席で入選したことを，耳にしたときは英語の時間でした。でもとても本当とは思えませんでした。それは市と県のコンクールでは運よく1席になりはしたものの，全国でトツプになろうとは夢も夢，全く心になかつたからです，それから二，三日のあいだ体の中心を失なつたような状態でした。

家でも図表の話でもちきりで，近所の人も「新聞でみたよ，おめでとう」といつてくれ，私は喜びをかくすことができませんでした。

参考までに上山川中学校の図表作成の順序を申し上げますとつぎのとおりです。

1　前年度の全国コンクール入選作品をスライドで充分研究する。
2　テーマを決定し資料の蒐集選択をする。
3　構図を考え，まとまつたら画用紙判の紙に書く。
4　トレーシングペーパーに出来上りと同じように書き上げる。
5　ケント紙に刷毛でバツクの色を塗る。
6　トレーシングペーパーへ書いたものを先の鋭いもので上からなでる。
7　6で輪廓のとれたところを色をきめて塗る。

色を塗るときは，塗りすぎてひびが入つたり，ポスターカラを少ししか溶かさなかつたため，切れてしまつたことでは苦労しました。

一日中自分の出そうとした色が出せなかつたり，途中までやつて最初からやり直したりで，肩が痛く目も悪くする人も出てくる始末でした。でも今では楽しい思い出となつています。

よい作品が生れたことは，夏休み中なのに休むことなく毎日指導して下さつた，伊東先生，須藤先生のお陰だと思います。さらに，いつでも私達を暖かい言葉で励ましてくれたクラスの人達の友情の賜物と心から感謝しております。

同　　3年
吉　森　す　み　子

8月16日は，まだ，夏休み中で暑い日が続きました。私達はその日から，図表作成にとりかかり，伊東先生，須藤先生の指導を受けいろいろと検討してテーマを決め資料を集めました。

書く順序は菊山さんが記したとおりですが，図表に書く字は，一字一字方眼紙を使つて書き，「結城紬一反のできるまで」の絵を書くため，雑誌や学校の図書それに先生方がもつている資料をお借りして参考としました。

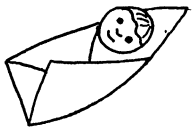
紬の年度別生産量は亀甲の模様で，図案は県繊維工業指導所で借り，これを参考に書きましたがこれだけで5日位要しました。

約1カ月でようやく1枚の図表が出来上りましたが，その時は自分でもよくこれまでやつたと思い，二人で顔を見合わせ思わずため息が出ました。あるときは暑くてあるときはあきれてしまつて，中断したこともありましたが，いつも先生は励まして下さいました。また市の宮田統計係長さんも何度も指導に来て下され，お陰で私達も最後まで頑張りとおすことが出きました。

思いがけず全国コンクールで1席に選ばれ，私達は11月20日遠く四国の高知県民ホールで，全国統計大会の席上表彰していただきましたが，この感激は生涯忘れることは出来ません。これも先生方の熱心なご指導とお友達の協力の賜物であり，今は感謝の気持で一杯です。

出　生

出　生



1日に2.7人

市町村民生活一覧表に就て

加　地　成　雄

1　はしがき

太平洋戦争後，市町村当局を編集者とする，戦前より極めて豪華な市町村勢要覧が，陸続と刊行されるに到つた。それは敗戦日本の統計施設強化への反省を第一に，新生広報施設の統計利用や，合併による膨張市町村の活動意欲や，さては，市町村制実施何十周年，開港何十周年，庁舎改築落成等々の記念刊行が原因しているのである。

まことに市町村勢要覧の刊行は，市町村自治の運営と反省に基盤を与え，市町村民の合理的生存と生活を持続する自信を貢つぐものである。

その市町村勢要覧中に，市民生活・町民生活・村民生活の名によつて特種の1項又は1頁が添入されるようになつたことは，遠く太平洋戦争以前のことであり，中には既にその添入を中止したものもあれば，廃止したと思われるものさえある。

が，実際には，今や市町村勢要覧は，市町村民生活一覧表添入ブームの様相を呈している。従つて，これが関係事項の選択や網羅やそれぞれの関係数の表示方式に，或は新機軸を，或は新鮮味を出そうと心を砕いている編集者のあることも想察されて，筆者には心楽しい限りである。

以下，最近における市町村民生活の発表事項等の一斑とその理想型を紹介し，市町村勢要覧編集者の参考に資したいと想う。

2　市町村民生活の理念

市町村民生活一覧表の表題は，これをそのまま市民生活，町民生活，村民生活又は稀に農民生活，漁民生活，○○村の一日等表示しているものもあるが，たとえば，栃木県宇都宮市，新潟県小千谷市，静岡県御殿場市，鹿児島県名瀬市等のように〝市民の生活〟と表示し，静岡県田方郡大仁町のように〝町民の生活〟と表示し，埼玉県秩父市や同県川越市のように〝市民と生活〟としたものもある。その他千葉県野田市のように〝市民生活早わかり〟としたもの，島根県那賀郡三隅町のように〝町民生活の概況〟と表示したものなどもある。理詰めでゆけば〝市町村民の生活〟の表示が，最もその実態を表わしその添入意図にそつているようである。

もともと，ここに謂う所の市町村民の生活とは，必らずしも市町村民の消費生活若しくは家計のみに局限したものでなく，現行憲法における生存権的基本権の一つである，健康的で文化的な最低限度の生活を営む権利における〝生活〟で，政府がこれが保障のためには，あらゆる施策を通じて努力する責任を負う生活をふくむことが考えられる。

さらに世界的統計学の父アツヘンワール教授が，統計の理念の祖述に当つて言つた。〝統計学は一国又は多数国家の顕著事実の学であつて，顕著事実とは，一国中に実際に生起する限り無き多数事実の中で，厚生に顕著に関係を持ち，これを阻害し又は助長するものである〟と。この顕著事実が，国民乃至市町村民の生活を築き上げ，市町村民のこの種生活事項が選抜網羅され，従つてその相対数が算出添記されるとき，市町村民生活一覧表はその面目を発揮するものと言えよう。

3　一覧表の添入位置と選抜事項数

市町村勢要覧中に添入掲記する市町村民生活一覧表の位置は，編集者の意向によつて必らずしも一定していない。編首に近く，沿革・地勢等の事項に接踵せしめて掲げるものもあれば，編末に近く，観光・文化財又は諸官公署団体の名称・位置等を一括掲記する直前に添入するものもあり，稀には裏表紙の内側全面に掲出して注意をひかしめているものもある。その他編中に混在せしめているものも鮮少ではないが，それらの内には，大分市のように，とくに市民生活に関する一連の統計数表に併せて掲記するものもある。

多彩な生活因数を組成する個々の生活事項中には，一日当り出生・死亡・婚姻・離婚・転入・転出の如き，市町村民何人につき市町村吏員・警察官・消防団員・医師・助産婦の如き，又は市町村民一人当り何円の市町村税成年市町村民1人1日当りたばこ消費本数，何世帯ラジオ・テレビ・電話一台等々各一覧表に共通しているものが多いが，筆者の知れる範囲においての現在の一覧表中最多事項を掲げている市町村は静岡県の浜松市の分でその数35事項だが，具体的にこれを示すと下記の通りである。

婚姻・出生・死亡・ラジオ・テレビ・市職員・医師・電話・普通郵便配達・水道栓・市民税・映画観覧・浜松駅降車・市の予算・交通事故・転入・転出・都市ガス・たばこ・火災・警官・消防士・小型乗用車・従業員（常用）・軽自動車・従業員・鮮魚・世帯人員・乗

合バス・普通郵便発送・ビール・清酒・市立図書閲覧・動物園の入園者・オートレース入場者

なお，新潟県小千谷市の25事項も多い方であるが，その選択事項中に人口密度・市会議員・小中学生徒・耕地・商店・トラツク等の変つた事項があり，浜松市で世帯・映画観覧・浜松駅降車・消防団員を人口・映画館・市内駅乗降客・消防士のように，中には単に称呼を代えているばかりでなく，〝映画観覧〟が映画観覧者を対象とする相対数を掲げているのに対し，〝映画館〟は映画館数を対象としている。

また，浜松市が市内特定駅――代表駅に限定し，かつその降車客のみを対象としているのに反して，小千谷駅のそれは市内所在駅全部に及び，かつ降車客とともに乗車客迄対象としているし，郵便においても，浜松市のそれは普通郵便の配達のみを対象としているが，小千谷市のこれは，引受もまた対象としている等々その内容にも多少変化がある。

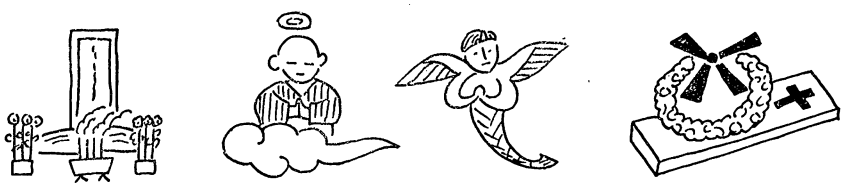
人口密度・人口・出生・死亡・婚姻・転入・転出・市会議員・市職員・市民税・小中学生徒・ラジオ・映画館・医師・耕地・商店・煙草・水道・市内駅乗降客・トラツク・軽二輪自動車・郵便・電話・警察職員・消防団員

4　一覧表の添画技巧

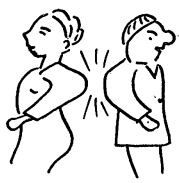
市町村民生活一覧表の魅力は各コマ（小間）の一半を占める相対数であるが，一面他の一半を占める添画にもある。元来この一覧表は，統計覧展会などにおける最も通俗卑近な統計思想普及の手段として掲出したものを，市町村勢要覧中に転入した性質のもであるから，添画の描出に払われる編集者の努力は並々ならぬものがある。その中でも，死亡・離婚・転入・転出の如き，まさに描出者の手腕と英智表出のバロメーターである。一種のスリルと共にユーモラスなムードさえ伴つている。

試みに全国市町村民生活一覧表中からその一斑を掲げて，編集者及び描出者が苦心のあとを示せば下の通りである。

1　死　　亡

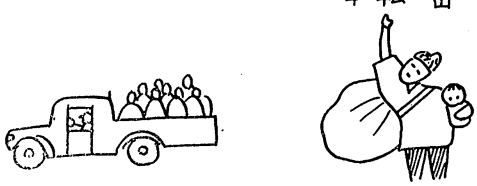


2 離　婚



3 転　入

4 転　出



その他死亡には霊柩車を掲げたものもあれば，墓詣りや霊前に遺族らしい者が泣哭している露骨なものもある。

5　将来の市町村民生活一覧表

これ要をするに，市町村民生活一覧表の添入は，市町村勢要覧を，年令的にも又は智力的にもあらゆる階層の市町村民に親しめるように，何か有効な，変つた，しかも判り易い施設を加えようとの意図に出たもので，積極的にこれを添入することを勧めたい。

添画は極めて単純な企画をもつて，往年，小学校の国定教科書の第1頁に，ハタ・タコ・コマ・マリの片仮名文字を教える為め，その各単語の1つ1つに，国旗の絵凧の絵，独楽の絵，手毬の絵が添えられていた程度のものに終つてもよい。しかし，往年のハタに添えられた最初の国旗の日の丸がすべて同じ濃度の色で描かれ，しかもその日の丸が，まん丸い紙片を貼りつけたように描かれていたが，その後，その色にも濃淡がつき，形も隋円にして，ふく風に靡いているかのように描かれていた。それとこれとは多少意味が違うが，筆者は，この添画を立そ体するとか，有識化するとかして，もつと親しみ易いものにしたらと思う。

一覧表には，他の統計数表と同じように，調査期をつけてほしい。その調査期は，一覧表中に包容する個々の生活事項の調査現在日や調査期間を一々つけるのは，反えつてコンプレツクスを生じるので，総括的もしくは重点的に，〝昭和何年〟と，表題の下に付記しておく方がその全く欠けたものより有効である。（7ページへ続く）

統計教育中間発表会を終つて

猿島郡三和村立諸川小学校

本校の第二年次中間発表会は去る十一月十三日に開催されましたが，玉造小学校ＰＴＡ会員百余名を初めとして参会者実に二百数十名の多きを数え盛会のうちにその幕を閉じました。

思えば，昭和三十六年四月に統計教育実験学校としこの指定を受けてからここに一年有半，その間職員児童一体となつて幾多の山積する問題と真剣にとりくんで参りましたが，未解決の問題はあまりにも多く第二年次の成果として発表するような研究はなに一つとしてない状態なのですが当日の発表の中から児童の実践記録の一例を挙げて本校児童の統計に対する興味と関心の高まりを紹介したいと思います。

児童の実践記録の一例

私たちが夏休みに見たテレビ

六年　酒井慎介
　　渡辺昇
　　松永猛

1　調査すること

(1)　どんな番組を見るか

(2)　どれくらいの時間見るか

番組の名前でなくいくつかに分類しました。分類はぼくたちだけではむずかしかつたので先生と相談して，次の表のようにしました。

1	げき	① 時代	子供むきのものをのぞいたもの（日本の）いわゆる西部げき
		② 西部	
		③ 活げき スリラー	西部げき以外の活げき，スリラーもの
		④ 文芸 ホームメロドラマ	○○劇場，家庭げき，恋愛もの
		⑤ コメディ	きげきといつているもの
		⑥ 子供むき	
2	音楽		歌など
3	ごらく	クイズなど	らくご，まん才，バラエテイー，ゼスチユア，私のひみつなど
4	スポーツ		野球，ボクシング，レスリングなど
5	ニユース		定時ニユース，天気よほう，おしらせなど
6	教養		学習に役立つもの（教育番組もいれる）
7	その他		マンガなど

2　調査の計画と経過

(1)　記録用紙（集計表も兼ねる）を作る。

(2)　六年生全員におねがいする。

(3)　夏休みの登校日に先生に記録の経過を見てもらう。

(4)　九月に各学級で記録表を集めてもらう。

(5)　集まつたものを整理，集計しグラフにする六年生全員約百二十名いるのですが記録表を出してくれたのは八十四名で約七十パーセントでした。出してくれない理由を先生がたずねたら，テレビは見たけれども記録しないでしまつたというのがほとんどでした。

3　調査の結果

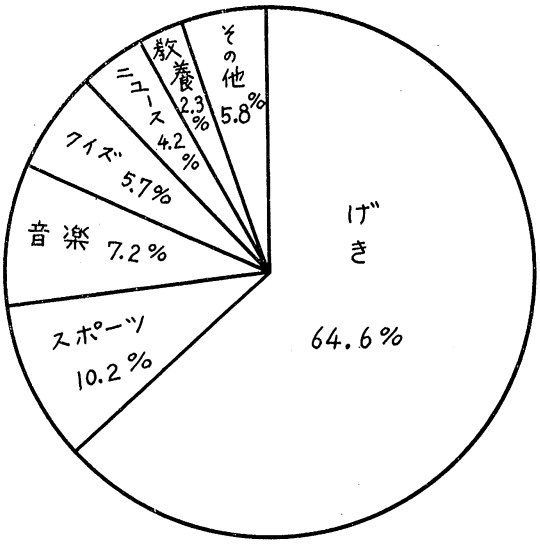
どんな種類の番組をみたか。グラフを見るとげきが全体の約六十五パーセントをしめて一番多くなつていますがこれはぼくたちが予想したとおりでした。これでためになるものよりもおもしろいものを見る人が多いということがわかりました。

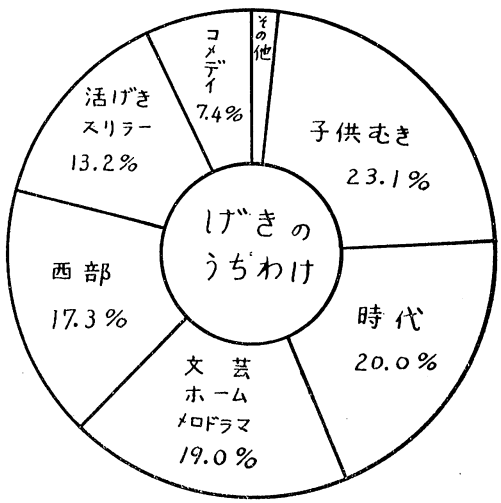
次に全体で一番多く見たげきの内容についてその内訳を調べてみました。次のグラフがそれです。

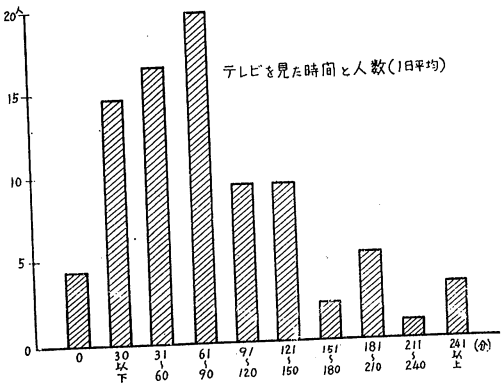
このわけ方にも問題があると思いますが，六年生のみんながわかる程度に分けてみました。このグラフを見て意外に思つたことは一番多いと思つていた西部げきや活げきがそれほどでもなかつたことです。

次にテレビを見た時間ですが，このグラフが度数を表わしたものです。

見た番組







このグラフによりますと一時間から一時間半までの人が二十人，ついで三十分から一時間までの十七人，三十分以下十四人というような順になつておりますが平均してみると二時間以内が約六十人で全体の七十五パーセントになります。一日平均三時間以上も見た人がありますが，あまり多くの時間見ることは目のためによくないときいております。

なお八十四名の平均は一時間十五分となつていますが，これは夏休みという特別の期間の調べなので普通の授業のある時とはちがつたものかと思われます。

4　終わりに

以上ぼくたち三人は実態を調べただけですが，これらをもとにしてこれからも研究を進めてテレビをただ楽しみのためだけに見るのではなく学習面にもおおいに利用して，テレビを見たために学力がさがつたなどといわれないように気をつけていきたいと思います。

（5ページより）別項で市町村民生活一覧表が示す生活の理念を一応明らかにしたので，もつと生活事項を添増することができよう。とくに1日平均，1人当り又は1世帯当りの各消費物を牛乳・豚肉・鶏卵・果物・清涼飲料水等々掲げただけでも，我然その効果が層倍するであろうし，また劈頭に1世帯当り人口の1コマを加えておいたら，その後にくる1世帯当りの相対数字がすべて1人当りに改算できる便利を伴うのである。

生活事項の配列にも一定順序を設けるといい。順序はその要覧の目次を逐い，従つてそれらの計数を逐えばよい。たとえば土地・世帯・人口・……の順序を踏み，人口は静態人口から動態人口に及び，動態人口は自然動態人口から社会動態人口に移り，自然動態人口は出生・死亡・婚姻・離婚と順を追う。市町村吏員・警察官・消防団員・教員・医師……等は，人口に所属せしめないで，各その職場に直接せしめ，市町村吏員は行政に，警察官は警察に，消防団員は消防に，教員は教育に，医師は保健・衛生に順次分属せしめると生きてくる。

添画の一部に，簡易な短冊図や面積図を使つたり，正確な描法による物象図を欲左させることも，統計一覧表らしくしていいと思う。

各生活事項についての相対数の表現方法には，たとえば1日当り何人，1日平均何人，1日につき何人，1日に何人，1日何人と精粗錯綜した表わし方があるが，その何れに拠るにしても，同一表中の各同種相対数の表わし方は，それぞれ統一すべきだと思う。

ゆくゆくは市町村民生活の表題も，市町村顕著事実とまで改称され，その内容も生活のプラスと生活のマイナスの二大部門に大別されるのではなかろうか。

最後に，すでに一覧表の添入を市町村勢要覧から中絶した市町村勢要覧作成者が，本稿を機縁としてその復元を図り，典型的一覧表を後進者に示していただきたいと念願するものである。（昭和37.10.1新稿）

筆者。「市町村勢要覧の作り方」「杉亨二伝」著者。
総理府統計職員養成所講師

家 計 調 査 結 果（参考）

調 査 の 目 的

家計調査は，全国の農林漁家以外の世帯の収入や支出を調査するものです。この調査によつて，世帯でえた収入がどのようなものに，いくら支出されたか。その支出の仕方が収入額や家族人員あるいは地域別などの違いによつて，どのように異なつているか，というように家計を通して国民生活の実態を明らかにして，経済政策や社会政策をたてるための基礎資料を得ることを目的としています。

調 査 の 方 法

この調査の対象となる世帯は全国の約 2,000万におよぶ世帯のうち，農林漁家などを除いた約 1,400万世帯ですが，このぼう大な数の世帯を全部調査することは，経費，労力，時間のうえからみてほとんど不可能ですからそのうちから一部の世帯をぬきだして調査し，全国の結果を推定する，標本調査の方法を採用しています。それは次のような段階で行なわれます。

調査世帯の選び方

まず，昭和36年10月 1 日現在の市町村から，118市56町村を抽出します。次に調査世帯を選ぶため，この抽出された市町村内に設けられている昭和35年国勢調査区にもとづいて単位区を設定し，約1,400単位区を無作為に選びます。なお，単位区は昭和35年国勢調査の一般調査区について近接した２調査区を組としたものです。（以上は統計局で行ないます。）

次に，その単位区内にあるすべての世帯を記載した名簿（「単位区世帯名簿」）を作り，この名簿から，無作為に６世帯を選びます。（無作為に選ぶとは，くじびきのような方法をもつて，仕事をする人の主観がはいらないように選ぶことです。）

そして，１調査員は２単位区，12世帯を担当します。

このように抽出された世帯（調査予定世帯）に調査への協力を依頼し，承諾した世帯を調査世帯として選定します。

なお，どうしても記入を承諾しない世帯は準調査世帯とします。

調査の期間と系統

この調査世帯に，家計簿によつて６か月間，勤労者世帯については家計収入と支出を，一般世帯については家計支出を，それぞれ記入します。

調査市町村には調査に従事する家計調査員（全国で672人）がおかれ，都道府県には調査員を指導する家計調査指導員（全国で 108 人）がおかれ，次の系統によつて実施されます。

内閣総理大臣（総理府統計局長）→都道府県知事（統計主管課長）→指導員→世帯

利 用 上 の 注 意

家計調査はこれまで述べてきたような調査の仕方で調べられるものであります。ここに参考として昭和37年８月分の勤労者世帯（世帯主が官公庁，学校，会社，工場商店などに雇用されている世帯，ただし，世帯主が社長取締役，理事などの会社団体の役員である世帯は一般世帯とする）について調査した結果のうち本県関係部分を掲載しましたが，この結果をみると調査世帯が，水戸市30，古河市14，友部町８というように非常に少ないことにお気づきのことと思います。そのためこの結果は，標本誤差が大き過ぎて，これをそのまま鵜呑にして利用することは極めて危険でありますので，一応の参考として利用されるようお願いいたします。

なお，９月分からは調査世帯も増え，水戸市はそのまま利用可能となり，古河市，友部町は他の県の結果とあわせ，関東地方として公表されます。

勤労者世帯1カ月の収入と支出（37年8月分）　　単位円

項目	水戸市	古河市	友部町
世帯数	30	14	8
世帯人員数	4.13	4.50	2.88
有業人員数	1.46	1.43	1.75
収入総額	64,543	55,979	37,286
実収入	**42,241**	**34,288**	**24,135**
勤め先収入	37,989	32,711	23,390
世帯主収入	32,658	29,629	14,965
（定期）	31,866	29,007	14,965
（臨時）	792	622	—
その他の世帯員収入	1,417	1,464	1,821
事業・内職収入	368	980	—
その他の実収入	3,884	597	745
（社会保障給付）	126	—	—
実収入以外の収入	**8,928**	**8,921**	**10,753**
（貯金引出）	6,846	1,929	8,439
（保険取金）	—	—	—
前月からの繰入金	**13,374**	**12,770**	**2,398**
記入不備	—	—	—
支出総額	64,543	55,979	37,286
実支出	**37,104**	**38,170**	**25,594**
消費支出	**33,843**	**35,539**	**23,797**
食料品	12,862	13,098	11,191
穀類	2,791	3,549	2,959
副食品	6,104	5,669	4,643
し好食品	3,068	3,084	2,516
外食費	899	796	1,073
住居費	3,338	6,514	3,718
（家賃地代）	648	1,196	325
（家具什器）	1,431	3,989	2,783
光熱費	1,567	1,472	887
被服費	3,399	2,388	760
雑費	12,677	12,067	7,241
（保健衛生費）	2,426	1,796	636
（教育費）	150	375	—
（教養娯楽費）	2,485	2,807	2,182
（交際費）	2,522	1,903	1,689
（損害保険料）	36	96	25
非消費支出	**3,261**	**2,631**	**1,797**
（勤労所得税）	651	407	235
（その他の税）	937	1,013	278
実支出以外の支出	**13,480**	**7,389**	**7,491**
（貯金）	7,061	2,652	4,438
（保険掛金）	1,603	1,613	847
翌月への繰越金	**13,959**	**10,420**	**4,201**
記入不備	—	—	—

最近の麻薬取締から

最近特に新聞，ラジオ，テレビ，週間誌等によつて麻薬禍について取り掲げられＰＲされ国会において問題にされあるいは国民の間でも認識を深めて来たことは，時期が遅かつたとは言い喜ばしい事である。

それでは麻薬とはどんなものであるかという事について極く簡単に申し述べると

1　「けし」から採取したアヘンアルカロイド系から抽出したもの，例えば阿片，モルヒネ，コデイン，ヘロイン等

2　コカ葉から抽出したもの例えばコカイン

3　化学的に合成したもので厚生大臣が指定したもの，例えばオペリヂン，ドロモラン等

と大別する事が出来てこれ等のものは連用すると中毒症状を呈するものであつて，特にヘロインは中毒性が他の麻薬に比べて強力である。そのため国際連合加入国においてはヘロインの製造販売使用等を全面的に禁止している。

よくこの麻薬と麻酔薬，覚せい剤を混同される方があるが一般に麻酔薬とは吸入麻酔としてエーテル，クロロホルム，笑気等があり静注にエビパンソーダ，内服にアベルチン抱水クロラール等があつて単独で使わずに各種の薬物を混合して手術等に使うのが常である。又覚せい剤は主にヒロポン，ゼドリン等があつて代表的にヒロポンとして知られている。

麻薬を取扱上から二つに分けると合法麻薬と非合法麻薬に分けられる。合法麻薬とは麻薬取扱者の免許を取得した者医師，歯科医師，薬剤師等が正規のルートで麻薬を購入しこれを医療用に使うものであつて非合法麻薬とは密輸，密造した正規ルート以外のものの他にヘロインがある。

主に非合法麻薬は大都市，駐留軍基地周辺，密造，港湾のある地域に多く集まつていて，そこえ中毒患者が蝟集するのである。ヘロインは外国（香港，バンコツク等）で１瓦４～５百円であるが国内に搬入されると約10倍の４～５千円になり等量のブドー糖を加えるから又２倍になる，ブドー糖を加えたヘロイン１瓦を25倍に別けて，これを１包（0.04g～0.05g）と称し６百円位で販売される，このヘロインを消毒もせずに水道水で溶いて静脈に注射して陶酔感に浸つているのが現状である。年間700億円位の金がそのため国外に流れているというこの陶酔感が口や筆で現わすことが出来ぬ程何ともいえないものであつて，一度この味を覚えたらやめられないと言う。反面，薬を断つと禁断現象（欠伸，流涙，便秘，下痢，倦怠，不眠，食慾不振，胃痛，悪寒戦慄等）が発呈し死ぬ苦しみを１週間位続けるのが特徴である。この陶酔感の味と禁断現象の恐ろしさの明暗２つのため中毒から脱却することが出来ずにずるずると泥沼の深みに入り込んでしまうのである。主にヘロインを取扱う者は何々組とか何々一派とかいう愚連隊，暴力団等の組織のあるものが取扱つて彼等の資金源としている。

合法麻薬については前にも述べたとおり医療用の鎮痛剤として胃癌攣，胆石症，癌の痛み止め等に使われなくてはならない薬であるが，一度その使用を誤ると麻薬は忽ち変じて魔薬となり身を亡ぼしその家庭を破壊する恐るべき薬となるものである。麻薬犯罪の根源は中毒者であると申しても過言ではないので，この中毒者の実態を把握することが取締の大きな仕事となつている。本年２月現在における本県の中毒者は別表のとおりであるが，これは調査時には転帰（治癒）していても１～２カ月すると又中毒になつていたという例が殆んどである。本県には約 100名位の中毒者が登録されているが麻薬に耽溺し又はて癖のある者を合計推定すれば３～４倍はあるのではないかと思われる。特に医療関係者（医師）に中毒者の多いのは手近に医療用の麻薬があるためその魅力に引かれるとか一時的に疾病の疼痛から逃れるために使用するようである。非合法麻薬と合法麻薬による中毒者の年令を比較すると非合法麻薬による中毒者は20才台に多く合法麻薬による中毒者は40才以上に多くなつているのが特徴である。違反事件についてはやはり自己の麻薬中毒による不正使用が一番多く昨年は５件６名の違反者を検察庁へ送致してある。これらは特に悪質のもので送検しなかつた者は約２倍位ある。本県においては非合法による違反事件は殆んどなかつたが最近は県南方面に於て１件３名が警察に検挙されている。地理的にも東京，横浜に近いので京浜方面の取締りが厳しくなると地方へ分散して取締りから逃れるという方法を取るようになつて来た傾向である。莫大な金銭を消費し然も身心を亡ぼす麻薬を我々の身辺，県内から追放しようではありませんか。（県医薬務課　田口麻薬係長）

中毒者実態調査結果

年令別

性別 / 年令	男		女		計	
	現中毒	転帰	現中毒	転帰	現中毒	転帰
20以下	1	0	0	0	1	0
21～25	0	5	0	1	0	6
26～30	1	2	0	0	1	2
31～35	4	3	1	3	5	6
36～40	4	4	3	2	7	6
41～50	6	6	4	7	10	13
51～60	7	9	3	0	10	9
61以上	9	3	4	1	13	4
計	**32**	**32**	**15**	**14**	**47**	**46**

国籍別

性別 / 国籍	男		女		計	
	現中毒	転帰	現中毒	転帰	現中毒	転帰
日本人	32	32	15	14	47	46
中国人	0	0	0	0	0	0
朝鮮人	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	**32**	**32**	**15**	**14**	**47**	**46**

職業別

性別 / 職業	男		女		計	
	現中毒	転帰	現中毒	転帰	現中毒	転帰
俸給生活	3	3	0	0	3	3
労務者	2	2	0	0	2	2
商人	6	2	1	1	7	3
車夫	0	0	0	0	0	0
飲食業	0	3	0	0	0	3
遊戯場	0	1	0	0	0	1
貸席	0	0	0	0	0	0
接客婦	0	0	0	3	0	0
医療関係	1	11	0	0	1	11
職人	3	5	0	0	3	5
学生	0	0	0	0	0	0
農水産	7	1	3	1	10	2
船員	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	0	0	1	1
無職	9	3	11	9	20	12
計	**32**	**32**	**15**	**14**	**47**	**46**

薬品別

麻薬品	現中毒	転帰	計
ヘロイン	0	6	6
モルヒネ	17	21	38
阿片アルカロイド	24	16	40
コカイン	0	0	0
コデイン	0	1	1
アミノプテン	0	0	0
あへん煙膏	0	0	0
その他	6	2	8
計	**47**	**46**	**93**

中毒の原因動機

原因動機	現中毒	転帰	計
疾病等で末期的	36	21	57
疼痛不安よりの逃避	0	0	0
好奇心	0	10	10
誘惑模倣	11	15	26
覚せい剤等より移向	0	0	0
その他	0	0	0
計	**47**	**46**	**93**

中毒治療について

現中毒

中毒の治療をしている	0
中毒の治療をしていない	47
計	**47**

転帰

	全治	一応治癒等
中毒を治療した	30	8
中毒を治療しなかつた	8	0
計	**38**	**8**

生活保護法の保護を受けているか（現中毒）

生活扶助	うけている	1
	うけていない	46
医療扶助	うけている	1
	うけていない	46
その他の扶助	うけている	0
	うけていない	47

毎月勤労統計調査結果速報 （昭和37年8月分）

茨　城　県

第1表　産業常用労働者の種類及び性別1日平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額　（規模30人以上）（単位円）

産業名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われた給与			臨時及び日雇労働者の1日平均現金給与額
	総額	男子	女子	総額	男子	女子	総額	男子	女子	
全常用労働者										
総数	**20,842**	**23,809**	**11,681**	**19,352**	**22,034**	**11,070**	**1,490**	**1,775**	**611**	**620**
D 鉱業	37,479	39,676	13,716	22,766	24,030	9,105	14,713	15,646	4,611	402
E 建設業	19,246	21,376	9,510	17,628	20,643	9,414	618	733	96	863
F 製造業	18,347	20,784	10,716	18,017	20,490	10,270	330	294	446	529
18 食料品	18,899	23,081	11,586	16,376	20,318	9,482	2,523	2,763	2,104	555
20 繊維工業	16,896	30,173	13,688	12,422	23,096	9,843	4,474	7,077	3,845	453
26 化学工業	19,014	23,746	9,754	18,284	23,016	9,754	730	730	—	—
30 窯業土石製品	24,427	25,548	18,910	23,186	24,133	18,401	1,241	1,415	509	668
32 非鉄金属	18,375	20,173	10,844	18,375	20,173	10,844	—	—	—	527
33 金属製品	13,078	15,547	8,903	13,025	15,497	8,861	53	50	42	—
34 機械製造業	15,800	17,671	9,264	15,659	17,495	9,228	141	176	18	—
35 電気機械器具製造業	18,549	20,714	10,272	18,438	20,586	10,186	112	128	86	404
19.38.39 その他	20,882	23,884	15,585	20,882	23,884	15,585	—	—	—	504
G 卸売及び小売業	18,044	23,872	11,399	16,617	22,175	10,280	1,427	1,697	1,119	362
H 金融及び保険業	23,050	28,905	14,413	23,050	28,905	14,413	—	—	—	—
I 不動産業	17,384	21,031	9,291	17,384	21,031	9,291	—	—	—	—
J 運輸通信業	25,120	28,303	16,351	24,425	27,599	15,681	695	704	670	403
K 電気ガス水道業	30,964	31,516	16,877	30,964	31,516	16,877	—	—	—	—
L 医療保健業	23,679	34,542	16,811	22,761	33,346	16,068	918	1,196	743	396
生産労働者										
D 鉱業	34,415	35,801	13,217	22,365	23,305	8,030	12,050	12,496	5,187	—
E 建設業	17,742	19,877	8,171	17,249	19,281	8,139	493	596	32	—
F 製造業	16,068	18,105	10,168	15,706	17,784	9,686	362	321	482	—
18 食料品	16,745	21,127	10,491	14,266	18,327	8,479	2,476	2,800	2,012	—
20 繊維工業	14,475	23,218	13,217	10,689	18,639	9,539	3,791	4,579	3,678	—
26 化学工業	15,421	19,784	8,956	15,424	19,784	8,956	—	—	—	—
30 窯業土石製品	23,759	24,348	20,516	22,201	22,605	20,007	1,553	1,743	509	—
32 非鉄金属	16,692	18,086	9,467	—	—	—	16,692	18,086	9,467	—
33 金属製品	12,108	14,142	8,519	12,065	14,092	8,477	53	50	42	—
34 機械製造業	13,471	14,755	8,434	13,334	14,584	8,430	137	171	4	—
35 電気機械器具製造業	16,094	17,908	9,665	16,009	17,825	9,575	85	83	90	—
19.38.39 その他	18,104	19,634	15,697	18,104	19,634	15,697	—	—	—	—
管理事務及び技術労働者										
D 鉱業	53,414	63,511	14,514	24,855	28,480	10,787	28,559	35,031	3,727	—
E 建設業	22,475	24,558	12,535	21,588	22,535	12,296	887	1,023	239	—
F 製造業	23,710	26,674	12,320	23,455	26,441	11,979	255	233	341	—
18 食料品	25,203	27,411	17,511	22,540	24,730	14,911	2,663	2,681	2,600	—
20 繊維工業	30,198	38,553	18,975	21,975	28,467	13,256	8,223	10,086	5,719	—
26 化学工業	25,077	29,301	12,382	24,347	28,571	12,382	730	730	—	—
30 窯業土石製品	26,736	29,869	14,295	26,505	29,638	14,295	231	231	—	—
32 非鉄金属	20,304	22,776	11,961	20,304	22,776	11,961	—	—	—	—
33 金属製品業	18,396	24,470	10,612	18,396	24,470	10,612	—	—	—	—
34 機械製造業	23,901	29,015	11,140	23,747	28,820	11,188	154	195	52	—
35 電気機械器具製造業	23,853	26,517	11,844	23,566	26,098	11,788	287	419	56	—
19.38.39 その他	28,696	34,105	15,155	28,696	34,105	15,155	—	—	—	—

産業常用労働者の種類別及び性別1日平均月間実労働時間数及び出勤日数

第 2 表　　（規模30人以上）　　（単位時間、日）

産業名	総実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出勤日数		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全常用労働者												
総数	**192.1**	**195.6**	**181.4**	**175.2**	**175.4**	**174.7**	**16.9**	**20.2**	**6.7**	**23.3**	**23.4**	**22.9**
D 鉱業	190.6	191.9	176.7	164.7	164.8	163.6	25.9	27.1	13.1	22.9	22.8	23.4
E 建設業	193.4	196.8	178.0	181.8	183.9	172.4	11.6	12.9	5.6	23.4	23.6	22.3
F 製造業	191.2	195.5	177.8	173.8	174.3	172.3	17.4	21.2	5.5	22.9	23.1	22.4
18 食料品	181.3	189.5	166.8	168.2	172.6	160.4	13.1	16.9	6.4	22.5	23.3	21.1
20 繊維工業	184.8	208.2	179.3	182.6	198.8	178.7	2.2	9.4	0.6	23.4	23.8	23.0
26 化学工業	190.4	203.0	167.7	176.7	184.1	163.5	13.7	18.9	4.2	23.0	23.8	21.6
30 窯業土石製品	206.0	203.9	217.0	187.9	184.1	207.6	18.1	19.8	9.4	24.4	23.7	27.4
32 非鉄金属	197.7	204.3	170.3	175.6	178.7	162.8	22.1	25.6	7.5	24.2	24.6	22.5
33 金属製品	187.9	192.6	179.7	176.6	179.4	171.8	11.3	13.2	7.9	22.4	22.6	22.0
34 機械製造業	192.9	196.7	180.0	179.8	181.2	175.5	13.1	15.5	5.0	23.2	23.3	22.9
35 電気機械器具製造業	188.6	192.2	175.0	170.4	170.8	169.3	18.2	21.4	5.7	22.6	22.7	22.3
19.38.39 その他	185.8	191.5	175.7	172.2	172.2	172.2	13.6	19.3	3.5	23.8	24.4	22.7
G 卸売及び小売業	207.9	211.0	204.2	195.6	195.6	195.5	12.3	15.4	8.7	24.8	24.9	24.8
H 金融及び保険業	184.5	185.1	183.6	177.1	176.6	177.7	7.4	8.5	5.9	25.2	25.3	25.1
I 不動産業	197.5	203.3	184.7	178.2	178.3	177.9	19.3	25.0	6.8	23.8	23.8	23.7
J 運輸通信業	194.0	198.4	181.8	178.3	181.0	170.9	15.7	17.4	10.9	24.1	24.3	23.6
K 電気ガス水道業	184.9	184.7	189.5	171.6	171.2	182.7	13.3	13.5	6.8	24.2	24.2	24.8
L 医療保健業	206.7	210.2	204.4	191.2	191.8	190.7	15.5	18.4	13.7	24.6	24.9	24.5
生産労働者												
D 鉱業	189.6	190.6	173.6	163.1	163.2	160.9	26.5	27.4	12.7	22.6	22.6	22.3
E 建設業	187.4	191.6	168.7	175.7	178.2	164.4	11.7	13.4	4.3	22.4	22.6	21.4
F 製造業	191.3	196.6	176.0	174.4	175.5	171.1	16.9	21.1	4.9	22.0	23.3	22.0
18 食料品	179.5	190.5	163.8	164.8	169.8	157.7	14.7	20.7	6.1	22.0	23.0	20.6
20 繊維工業	179.8	193.5	178.1	178.7	186.9	177.6	1.1	6.6	0.5	23.0	23.3	22.9
26 化学工業	190.0	207.2	164.6	175.8	185.8	160.8	14.2	21.4	3.6	22.8	23.9	21.2
30 窯業土石製品	208.2	204.9	226.4	188.5	183.5	216.1	19.7	21.4	10.3	24.4	23.6	28.7
32 非鉄金属	196.6	201.7	152.5	172.4	173.9	147.3	24.2	27.8	5.2	24.5	25.1	21.1
33 金属製品	186.6	192.0	177.2	175.7	179.5	169.1	10.9	12.5	8.1	22.2	22.5	21.5
34 機械製造業	192.1	195.4	178.7	179.3	180.5	174.1	12.8	14.9	4.6	23.1	23.2	22.7
35 電気機械器具製造業	189.6	194.2	173.2	172.4	173.5	168.3	17.2	20.7	4.9	22.8	23.0	22.1
19.38.39 その他	188.3	200.2	169.6	173.6	177.9	166.9	14.7	22.3	2.7	23.5	24.4	22.0
管理事務及び技術労働者												
D 鉱業	195.9	199.7	181.5	173.0	174.3	167.8	22.9	25.4	13.7	24.3	24.1	25.0
E 建設業	206.3	207.8	199.1	195.0	196.0	190.5	11.3	11.8	8.6	25.5	25.7	24.6
F 製造業	190.9	192.9	183.2	172.4	171.5	175.8	18.5	21.4	7.4	22.9	22.8	23.2
18 食料品	186.2	187.1	183.3	177.9	178.7	175.3	8.3	8.4	8.0	24.0	24.1	23.7
20 繊維工業	211.0	225.7	193.6	203.9	213.0	191.7	7.1	12.7	1.9	25.5	26.6	24.0
26 化学工業	191.4	185.9	178.5	178.9	181.2	172.3	12.5	14.8	6.2	23.4	23.6	22.8
30 窯業土石製品	198.9	200.5	192.8	186.0	186.0	185.7	12.9	14.4	7.1	24.2	24.3	24.2
32 非鉄金属	202.3	207.5	185.0	182.6	184.7	175.6	19.7	22.8	9.4	23.9	24.0	23.6
33 金属製品	195.1	198.2	201.3	181.7	180.0	184.0	13.4	18.2	23.3	23.7	23.3	24.2
34 機械製造業	196.0	201.3	183.1	181.8	183.7	177.2	14.2	17.6	5.9	23.7	23.8	23.4
35 電気機械器具製造業	186.6	188.1	179.9	166.4	165.2	172.0	20.2	22.9	7.9	22.2	22.1	22.8
19.38.39 その他	178.9	170.9	199.0	168.3	158.7	192.4	10.6	12.2	6.6	24.6	24.3	25.3

第 3 表　産業常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の年月推計延人員（規模30人以上）　（単位、人）

前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
137,781	**104,133**	**33,648**	**1,589**	**992**	**597**	**4,421**	**3,237**	**1,184**	**134,949**	**101,888**	**33,061**	**60,496**
10,389	9,507	882	122	115	7	133	121	12	10,378	9,501	877	7,265
6,010	4,941	1,069	193	129	64	204	157	47	5,999	4,913	1,086	26,098
92,747	70,382	22,365	787	497	290	3,654	2,770	884	89,880	68,109	21,771	11,178
3,587	2,271	1,316	68	42	26	85	31	54	3,570	2,282	1,288	368
1,579	304	1,275	23	6	17	31	1	30	1,571	309	1,262	1,037
1,859	1,176	683	14	12	2	94	27	67	1,779	1,161	618	—
3,780	3,147	633	69	64	5	65	45	20	3,784	3,166	618	1,711
6,639	5,347	1,292	74	61	13	153	101	52	6,560	5,307	1,253	5,866
1,552	967	585	36	37	6	69	38	31	1,519	959	560	—
5,385	4,190	1,195	8	4	4	85	66	19	5,308	4,128	1,180	—
50,768	40,352	10,416	226	140	86	2,700	2,208	492	48,294	38,284	10,010	57
2,073	1,323	750	30	24	6	35	27	8	2,068	1,320	748	115
7,518	4,003	3,515	144	45	99	192	66	126	7,470	3,982	3,488	6,564
4,494	2,665	1,829	87	56	31	130	55	75	4,451	2,666	1,785	—
378	262	116	12	3	9	5	1	4	385	264	121	—
14,321	10,522	3,799	211	114	97	97	61	36	14,435	10,575	3,860	9,391
1,924	1,851	73	33	33	—	6	6	—	1,951	1,878	73	—
3,087	1,194	1,893	28	1	27	56	8	48	3,059	1,187	1,872	1,078
8,713	8,174	539	109	107	2	116	109	7	8,706	8,172	534	—
4,137	3,396	741	103	54	49	184	147	37	4,056	3,303	753	—
64,684	48,063	16,621	660	402	258	1,886	1,274	612	63,458	47,191	16,267	—
2,681	1,568	1,113	58	32	26	85	31	54	2,654	1,569	1,085	—
1,337	167	1,170	18	1	17	27	—	27	1,328	168	1,160	—
1,276	747	529	12	10	2	87	25	62	1,201	732	469	—
2,919	2,462	457	66	61	5	63	43	20	2,922	2,480	442	—
3,559	2,981	578	37	31	6	103	81	22	3,493	2,931	562	—
1,313	831	482	33	30	3	58	30	28	1,288	831	457	—
4,188	3,336	852	4	4	—	75	59	16	4,117	3,281	836	—
34,038	26,544	7,494	191	111	80	1,094	810	284	33,135	25,845	7,290	—
1,524	929	595	30	24	6	23	15	8	1,531	938	593	—
1,676	1,333	343	13	8	5	17	12	5	1,672	1,329	343	—
1,873	1,545	328	90	75	15	20	10	10	1,943	1,610	333	—
28,063	22,319	5,744	127	95	32	1,768	1,496	272	26,422	20,918	5,504	—
906	703	203	10	10	—	—	—	—	916	713	203	—
242	137	105	5	5	—	4	1	3	243	141	102	—
583	429	154	2	2	—	7	2	5	578	429	149	—
861	685	176	3	3	—	2	2	—	862	686	176	—
3,080	2,366	714	37	30	7	50	20	30	3,067	2,376	691	—
239	136	103	3	—	3	11	8	3	231	128	103	—
1,197	854	343	4	—	4	10	7	3	1,191	847	344	—
16,730	13,808	2,922	35	29	6	1,606	1,398	208	15,159	12,439	2,720	—
549	394	155	—	—	—	12	12	—	537	382	155	—

毎月勤労統計調査結果速報 （昭和37年9月分）

茨　城　県

第1表　産業常用労働者の種類別及び性別1日平均月間現金給与額並びに産業別臨時及び日雇労働者の1人1日平均現金給与額　（規模30人以上）　（単位円）

産業名	現金給与総額			きまつて支給する給与			特別に支払われた給与			臨時及び日雇労働者の1日平均現金給与額
	総額	男子	女子	総額	男子	女子	総額	男子	女子	
全常用労働者										
総数	**20,595**	**23,402**	**11,893**	**19,851**	**22,591**	**11,358**	**744**	**811**	**535**	**687**
D鉱業	23,303	24,626	9,221	23,198	24,498	9,206	105	128	15	412
E建設業	19,096	21,167	9,789	18,811	20,838	9,674	285	329	115	893
F製造業	18,439	20,963	10,452	18,425	20,948	10,443	14	15	9	648
18 食料品	17,082	21,232	9,787	17,082	21,232	9,787	—	—	—	—
20 繊維工業	13,704	26,458	10,200	13,704	26,458	10,200	—	—	—	460
26 化学工業	17,788	21,236	11,144	17,788	21,236	11,144	—	—	—	—
30 窯業土石製品	22,276	24,385	11,477	22,276	24,385	11,477	—	—	—	721
32 非鉄金属	19,488	21,409	11,237	19,488	21,409	11,237	—	—	—	766
33 金属製品	13,594	16,309	9,008	13,594	16,309	9,008	—	—	—	—
34 機械製造業	15,918	17,682	9,650	15,918	17,682	9,650	—	—	—	—
35 電気機械器具製造業	19,179	21,365	10,669	19,179	21,365	10,669	—	—	—	429
19.38.39 その他	20,746	24,213	14,657	20,746	24,213	14,657	—	—	—	418
G卸売及び小売業	17,964	23,781	11,556	17,964	23,781	11,556	—	—	—	356
H金融及び保険業	39,802	50,869	23,372	23,762	30,068	14,400	16,040	20,801	8,972	—
I不動産業	17,480	21,388	9,009	17,480	21,388	9,009	—	—	—	—
J運輸通信業	27,917	32,157	16,363	25,023	28,298	15,834	2,894	3,859	529	400
K電気ガス水道業	32,539	33,146	16,904	30,658	31,217	16,274	1,881	1,929	630	—
L医療保健業	23,302	33,673	16,678	23,216	33,587	16,678	86	86	—	419
生産労働者										
D鉱業	22,903	23,860	8,348	22,903	23,860	8,348	—	—	—	—
E建設業	17,909	20,057	8,673	17,663	19,752	8,640	246	305	33	—
F製造業	16,029	18,142	9,823	15,960	18,051	9,792	69	91	31	—
18 食料品	15,309	19,352	9,227	15,309	19,352	9,227	—	—	—	—
20 繊維工業	11,437	20,515	9,925	11,437	20,515	9,925	—	—	—	—
26 化学工業	13,967	16,433	9,983	13,967	16,433	9,983	—	—	—	—
30 窯業土石製品	21,335	23,278	10,360	21,335	23,278	10,360	—	—	—	—
32 非鉄金属	17,823	19,242	10,285	17,823	19,242	10,285	—	—	—	—
33 金属製品	12,378	14,516	8,582	12,378	14,516	8,582	—	—	—	—
34 機械製造業	13,568	14,728	8,920	13,568	14,728	8,920	—	—	—	—
35 電気機械器具製造業	16,317	18,063	9,995	16,317	18,063	9,995	—	—	—	—
19.38.39 その他	18,114	20,337	14,611	18,114	20,337	14,611	—	—	—	—
管理事務及び技術労働者										
D鉱業	24,836	28,528	10,557	24,731	28,400	10,542	105	128	15	—
E建設業	21,514	23,371	12,361	21,135	22,987	12,006	379	384	355	—
F製造業	24,317	27,482	12,329	24,305	27,468	12,325	12	14	4	—
18 食料品	21,843	25,349	12,060	21,843	25,349	12,060	—	—	—	—
20 繊維工業	25,534	34,046	13,265	25,534	34,046	13,265	—	—	—	—
26 化学工業	25,729	29,508	14,721	25,729	29,508	14,721	—	—	—	—
30 窯業土石製品	25,487	28,437	14,235	25,487	28,437	14,235	—	—	—	—
32 非鉄金属	21,460	24,193	12,033	21,460	24,193	12,033	—	—	—	—
33 金属製品	20,287	27,498	10,946	20,287	27,498	10,946	—	—	—	—
34 機械製造業	24,059	29,188	11,400	24,059	29,188	11,400	—	—	—	—
35 電気機械器具製造業	25,358	28,166	12,434	25,358	28,166	12,434	—	—	—	—
19.38.39 その他	28,192	33,661	14,830	28,192	23,661	14,830	—	—	—	—

産業常用労働者の種類別及び性別一人平均月間実労働時間数及び出勤日数

（規模30人以上）　（単位時間、日）

産業名	実労働時間数			所定内労働時間数			所定外労働時間数			出勤日数		
	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子
全常用労働者												
総数	**203.1**	**207.2**	**190.7**	**185.1**	**185.5**	**183.9**	**18.0**	**21.7**	**6.8**	**24.6**	**24.7**	**24.2**
D 鉱業	194.9	196.4	178.9	168.1	168.2	166.9	26.8	28.2	12.0	23.3	23.3	23.2
E 建設業	190.7	191.6	186.7	179.4	179.0	181.1	11.3	12.6	5.6	23.2	23.2	23.4
F 製造業	207.4	212.6	190.8	188.4	189.4	185.1	19.0	23.2	5.7	24.8	25.0	24.1
18 食料品	190.9	199.6	175.4	176.1	180.2	168.9	14.8	19.4	6.5	23.3	23.9	22.2
20 繊維工業	194.0	216.2	187.9	188.9	196.3	186.8	5.1	19.9	1.1	23.7	25.9	23.1
26 化学工業	208.1	218.4	188.5	191.2	194.4	185.0	16.9	24.0	3.5	25.0	25.2	24.7
30 窯業土石製品	208.5	210.4	198.4	189.0	188.2	192.9	19.5	22.2	5.5	24.5	24.4	25.1
32 非鉄金属	191.7	193.1	186.0	166.1	163.4	178.1	25.6	29.7	7.9	23.2	23.3	22.9
33 金属製品	195.3	202.4	183.0	183.4	187.9	175.6	11.9	14.5	7.4	23.1	23.6	22.1
34 機械製造業	207.1	210.1	196.5	192.5	193.1	190.3	14.6	17.0	6.2	24.9	24.9	25.0
55 電気機械器具製造業	211.4	215.9	194.0	191.8	192.8	188.0	19.6	23.1	6.0	25.2	25.3	24.8
19.38.39 その他	194.0	206.4	172.2	176.5	181.2	168.4	17.5	25.2	3.8	23.4	24.0	22.3
G 卸売及び小売業	207.8	208.3	207.2	196.4	195.3	197.7	11.4	13.0	9.5	25.1	25.1	25.0
H 金融及び保険業	186.2	186.4	186.0	177.3	175.9	179.4	8.9	10.5	6.6	25.1	25.1	25.2
I 不動産業	212.2	222.6	189.7	190.5	193.9	183.1	21.7	28.7	6.6	25.4	25.9	24.4
J 運輸通信業	194.8	199.8	180.7	179.0	181.8	171.1	15.8	18.0	9.6	24.2	24.3	23.7
K 電気ガス水道業	172.8	177.3	160.9	159.7	159.9	155.5	13.1	13.4	5.4	23.7	23.7	22.3
L 医療保健業	227.7	222.8	230.7	192.4	190.9	193.3	35.3	31.9	37.4	25.1	25.1	25.2
生産労働者												
D 鉱業	194.5	195.4	180.9	166.5	166.3	169.1	28.0	29.1	11.8	23.0	23.0	23.0
E 建設業	188.0	189.1	183.1	176.2	175.7	178.2	11.8	13.4	4.9	22.5	22.3	23.0
F 製造業	206.3	212.3	189.1	187.8	189.2	183.6	18.5	23.1	5.5	24.8	25.1	23.8
18 食料品	195.3	204.7	181.1	177.7	180.0	174.3	17.6	24.7	6.8	23.4	23.9	22.5
20 繊維工業	189.0	203.0	186.6	185.6	185.3	185.6	3.4	17.7	1.0	23.4	25.7	23.0
26 化学工業	208.4	222.4	185.8	188.7	192.5	182.6	19.7	29.9	3.2	24.6	24.8	24.2
30 窯業土石製品	207.3	209.5	195.5	186.6	186.0	190.1	20.7	23.5	5.4	24.2	24.1	24.7
32 非鉄金属	206.4	211.0	181.8	174.2	173.9	175.5	32.2	37.1	6.3	25.0	25.6	22.2
33 金属製造	193.2	200.9	179.5	182.0	187.4	172.5	11.2	13.5	7.0	22.9	23.6	21.7
34 機械製造業	205.6	208.3	194.9	191.4	192.0	189.1	14.2	16.3	5.8	24.7	24.6	24.8
35 電気製械器具製造業	208.6	213.1	191.9	190.5	191.5	186.6	18.1	21.6	5.3	25.2	25.5	24.5
19.38.39 その他	190.0	207.6	164.6	173.0	179.9	162.1	17.9	27.7	2.5	22.9	23.8	21.5
管理事務及び技術労働者												
D 鉱業	197.1	202.5	176.1	176.7	180.0	163.6	20.4	22.5	12.5	24.8	25.1	23.5
E 建設業	196.3	196.7	194.6	185.9	185.6	187.6	10.4	11.1	7.0	24.7	24.8	24.4
F 製造業	210.1	213.7	196.7	189.9	190.1	189.4	20.2	23.6	7.3	24.8	24.7	25.2
18 食料品	178.8	188.2	152.4	171.7	180.4	147.2	7.1	7.8	5.2	23.2	23.9	21.1
20 繊維工業	220.2	233.6	202.6	206.1	211.0	200.8	14.1	22.6	1.8	25.6	26.4	24.6
26 化学工業	207.9	211.4	197.0	196.5	197.6	192.6	11.4	13.8	4.4	26.0	26.0	26.0
30 窯業土石製品	212.1	213.8	205.8	197.0	196.2	200.0	15.1	17.6	5.8	25.6	25.5	26.1
32 非鉄金属	174.3	169.9	204.4	156.6	149.8	195.2	17.7	20.1	9.2	21.1	20.3	23.6
33 金属製品業	206.5	212.1	199.1	190.7	191.5	189.6	15.8	20.6	9.5	23.9	24.0	23.8
34 機械製造業	212.3	217.0	200.5	196.2	197.3	193.4	16.1	19.7	7.1	25.7	25.8	25.4
35 電気機械器具製造業	217.7	221.6	199.5	194.8	191.9	195.4	22.9	26.2	7.6	25.2	25.1	25.8
19.38.39 その他	202.8	203.4	201.0	186.5	184.1	192.2	16.3	19.3	8.8	24.8	24.7	25.3

第3表　産業常用労働者の種類及び性別月末及び増加減少推計労働者数並びに産業別臨時及び日雇労働者の年月推計延人員（規模30人以上）　（単位人）

前月末労働者数			本月中の増加			本月中の減少			本月末労働者数			臨時及び日雇労働者の月間推計延人員
総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	総数	男子	女子	
134,949	**101,984**	**32,965**	**2,215**	**1,379**	**836**	**4,099**	**2,714**	**1,385**	**133,065**	**100,649**	**32,416**	**55,260**
10,378	9,501	877	175	150	25	268	244	24	10,285	9,407	878	7,334
5,999	4,911	1,088	126	106	20	219	186	33	5,906	4,831	1,075	26,910
89,880	68,161	21,719	1,080	775	305	3,047	2,002	1,045	87,963	66,934	20,979	87,963
3,570	2,262	1,308	23	8	15	182	81	101	3,411	2,189	1,222	—
1,571	330	1,241	40	20	20	36	2	34	1,575	348	1,227	1,871
1,779	1,164	615	24	22	2	34	14	20	1,769	1,172	597	—
3,784	3,166	618	104	88	16	74	64	10	3,814	3,190	624	2,295
6,560	5,307	1,253	227	203	24	277	215	62	6,510	5,295	1,215	4,788
1,519	960	559	44	17	27	51	33	18	1,512	944	568	—
5,308	4,144	1,164	45	29	16	180	137	43	5,173	4,036	1,137	—
48,294	38,324	9,970	347	246	101	1,732	1,115	580	46,909	37,418	9,491	119
2,068	1,318	750	9	2	7	44	25	19	2,033	1,295	738	146
7,470	3,953	3,517	419	100	319	245	84	161	7,644	3,969	3,675	4,791
4,451	2,667	1,784	73	19	54	127	66	61	4,397	2,620	1,777	—
385	264	121	6	2	4	3	1	2	388	265	123	—
14,435	10,649	3,786	324	215	109	178	119	59	14,581	10,745	3,836	5,355
1,951	1,878	73	12	12	—	12	12	—	1,951	1,878	73	—
3,059	1,187	1,872	86	20	66	45	13	32	3,100	1,194	1,906	888
8,706	8,172	534	161	144	17	249	233	16	8,618	8,083	535	—
4,055	3,300	755	51	37	14	192	167	25	3,914	3,170	744	—
63,434	47,270	16,164	860	616	244	2,470	1,621	849	61,824	46,265	15,559	—
2,611	1,556	1,055	18	5	13	154	61	93	2,475	1,500	975	—
1,316	179	1,137	38	20	18	30	2	28	1,324	197	1,127	—
1,202	735	467	20	20	—	31	12	19	1,191	743	448	—
2,922	2,480	442	64	56	8	64	56	8	2,953	2,511	442	—
3,492	2,930	562	89	64	25	89	64	25	3,593	3,032	561	—
1,286	830	456	47	33	14	47	33	14	1,279	811	468	—
4,129	3,304	825	40	28	12	165	127	38	4,004	3,205	799	—
33,160	25,914	7,246	230	162	68	1,478	1,001	477	31,912	25,075	6,837	—
1,531	937	594	7	—	7	39	21	18	1,499	916	583	—
1,672	1,329	343	14	6	8	19	11	8	1,667	1,324	343	—
1,944	1,611	333	75	69	6	27	19	8	1,992	1,661	331	—
26,446	20,891	5,555	220	159	61	577	381	196	26,089	20,669	5,420	—
959	706	253	5	3	2	28	20	8	936	689	247	—
255	151	104	2	—	2	6	—	6	251	151	100	—
577	429	148	4	2	2	3	2	1	578	429	149	—
862	686	176	9	1	8	10	8	2	861	679	182	—
3,068	2,377	691	37	37	—	188	151	37	2,917	2,263	654	—
233	130	103	4	3	1	4	—	4	233	133	100	—
1,179	840	339	5	1	4	15	10	5	1,169	831	338	—
15,134	12,410	3,724	117	84	33	254	151	103	14,997	12,343	2,654	—
537	381	156	2	2	—	5	4	1	534	379	155	—

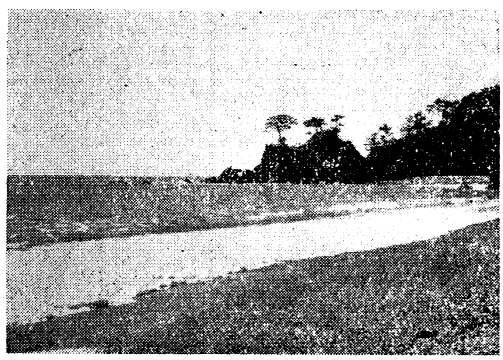
全国統計マンの祭典
全国統計大会高知県民ホールで開かる

南国土佐というところ

高知県と申しましても，それがどのへんにある県かピンと来ない人もあろう，しかし土佐といえば人々は「あゝあのペギー葉山の唄に出てくる四国の高知県か」ということが思い浮ぶと思う。そういう意味で南国土佐という言葉は，今や高知県の一つのトレードマークとなつている。

高知県は四国の南半を占め，北に四国山脈を背負い，南に陥没湾の土佐湾を抱き，扇をひろげた形をしている。面積は 7,104平方キロメートルで四国第1位，総面積の80％を山林が占めており，耕地はわずか 8.5％にすぎない。人口は昭和35年の国勢調査の結果によれば，854,595人で，本県の2分の1以下である。産業構造をみると，第1次産業就業者が51％，第2次産業16.4％，第3次産業32.5％で，本県の第1次産業就業者56.4％にくらべ，産業構造は高度化しているといえよう。ために1人当り県民所得においても本県の96,100円に対し96,400円（昭和35年）とわずかではあるが高くなつている。

唄で知られているように，高知県は非常に観光に恵まれており，この地を訪れた人々の目に暖かい南国の情緒を味わせてくれる。月の名所桂浜をはじめ，頂上から瀬戸内海を一望できる五台山，延長 4,000mの鐘乳石の大洞穴で，林立する巨大な石筍，石柱に目を奪われる竜河洞，五台山の僧純信と，いかけ屋の娘お馬のロマンスの花が咲いたはりまや橋，台風期には必ずといつてよい程登場してくる室戸岬，足摺岬，室戸岬には直経4mの観測範囲半経400km東洋一の巨大なレーダーアンテナと，250万燭光，光達距離30.5浬の灯台がある。



桂　浜

土佐の人間はよく，イゴツソーといわれるそうでそれは頑固であり，一種の意志型の性格である。そのくせ案外人間が淡白で底意がない。これは土佐人が，土佐酒を飲み闘犬を楽しむという躍動的な面を好む反面，尾の長さ6，7mにも及ぶという長尾鳥の静的な美しさを観賞するという性格をいつたものであろう。

土佐の地勢あるいは気候，そしてそこに住む人間の気質，そういう面から考えると当然といえるかも知れないが，高知県からは，全国に自由民権運動を及ぼした，板垣退助，土佐勤王党の盟友で，大政奉還に大きな力を尽した，坂本竜馬と中岡慎太郎，22才で奉行職（国老）を命ぜられ藩政の主班として働き，また南学の修養を加えた，野中兼山などをはじめ，大正から昭和にかけては，宰相浜口雄幸，植物学者牧野富太郎，寺田寅彦など偉人傑士を出している。

現在各地方において地域開発の問題に取組んでいるが従来高知県も，峻嶮な四国山脈にわざわいされて，交通の発達がおくれ，そのため産業経済など各種の面で立ちおくれを余儀なくされていたようであります。しかし溝淵高知県知事のもと，着々と開発が進められており，今後の発展が大いに期待され，遠く水戸の地から高知県の躍進を願つて紹介にかえます。

大　会　記

高知駅前に降り立つと，大会事務局職員が携帯マイクで「全国統計大会参加の方は事務局の受付へお寄り下さい」と忙しそうにアナウスしている。みると駅の左側にはテント張の受付所があつた。

市内には歓迎のアーチやビラがはつてあり，大会ムードがかもしだされている。大会の事実上の幕は，19日の6時30分から高知市中央公民館で行なわれた。前夜祭によつて開かれた。会場には丹前姿の観客がつめかけ，早くも大会気分が盛りあがつている。NHK瀬田アナウンサーの司会で，つぎつぎとお国自慢が被露され時の過ぎるのも忘れ，舞台にひきつけられた。

第13回全国統計大会は，11月20日高知県民ホールで行なわれた。

天候はあいにくの曇空であつたが，11月も下旬という

のに，さすがに南国の朝は暖かい。昨夜から待つていた遠来の大会参加者は，朝の澄んだ，空気を吸いながら，市内のあちらこちらから，大会場目指して集まつてくる，心なしかその足音も軽やかに聞こえる。

県民ホール

大会場の県民ホールは，5,600名を収容出来るというマンモスホールで，入口は受付をする人，あるいは記念撮影をしている人などでごつた返している。

開会時刻の10時には 2,700名の参加者が集まり，開会を待つばかりとなつた，そして定刻10時には，満堂を埋めつくした全国統計マンの嵐のような拍子のうちに，司会者から「大変お待たせしました只今から第13回全国統計大会を開催いたします」という言葉で大会の幕は切つて落された。

はじめに溝淵高知県知事，氏原高知市長から「みなさま南国土佐まで，御遠路ようこそおいでくださいました……。」という歓迎のことばがあり，ついで主催者あいさつを，病気のため欠席された財団法人全国統計協会会長大内兵衛氏に代り，副会長の後藤行政管理庁統計基準局長が，「本日，南国の香り高き高知市県民ホールにおいて多数の参加者を得て全国統計大会を開催できますことは，主催者として大きな喜びであります。わが国の統計が近年急速な進歩を遂げ，しかも利用の範囲がますます増大していることは，皆さん良くご承知のところでありましよう。このようなときにこそ統計の仕事にたずさわるわれわれ統計関係者は，より良い統計，より真実の統計を利用者に提供するよう努力しなければなりません。われわれ統計関係者は，今後ますます重くなる責任を双肩ににない，日本の進歩のために一層の努力を約し相共に前進してゆきたいと思います。」というメツセージを朗読，ついで大内賞，各省表彰，全国統計協会連合会会長賞，第12回懸賞論文入選者，第10回統計図表全国コンクール入選者に対する表彰が行なわれた。引続いて来賓祝辞，祝電披露があり，ついで受賞者代表の謝辞があつた。

時計の針もすでに12時に近くなつた，ここで議事に入り，名古屋市統計課長綿田義光氏から「統計行政の確立について」鳥取県総務部統計課長荒賀幸吉氏から「統計調査員手当の増額について」の二つの議題が提案され，提案者の説明があつたのち，参加者のうちから委員を選出し，この問題は委員会に付託され，会議は休憩となり昼食をとつた。

午後は，研究発表からはじめられ，静岡県企画調整部統計課望月淳氏から，私たちのくらし「静岡県民生活白書」と題して，発刊の動機，白書という名称で発表した理由，白書作成に当つた組織と機構，白書の理論体型とその手法，白書についての問題点，などについて30分にわたり発表があり，つづいて，徳島市富田小学校4年生妹尾昌昭君，堀内知子さんの共同研究になる「郷土徳島港のすがた」を，小学生ながら大勢の聴衆を前に，堂々とした態度で発表した。

ついで，「統計の今後のあり方」と題して，小田原登志郎総理府統計局長，増山元三郎，運輸省気象研究所応用気象研究部第三研究室長，溝淵増己高知県知事，美濃部亮吉東京教育大学教授，の諸講師と後藤正夫行政管理庁統計基準局長の司会によつてパネル討議が行なわれた。

ここで休憩となつていた会議が，再び開かれ，午前中に委員会に付託された事案について，委員長から審議の経過と結果が報告され，全体会議において委員長報告通り採択，決議事項を関係各省庁に申込れることに決定した。

引続き，第12回全国統計大会の審議事項結果報告があり，また，次期開催地は長崎県と決定した。

盛り沢山の大会行事も次々と行なわれ，いよいよ大詰全国統計マンの決意を内外に示す，宣言を次のとおり行なつた。

わが国の統計が近年急速の進歩発達を遂げ，しかもその利用の範囲がますます増大していることは，われわれ統計関係者一同の大いなる誇りであり喜びでもある。そして今や世はあげて原子力時代より宇宙開発の時代へと急テンポの躍進を遂げつつあるが，その陰には，近代的統計手法，統計技術の力があずかつて大なるものがあることを，われわれはよく知つている。このようなきびしい時代に直面するとき統計の仕事にたずさわるわれわれは，時代の要請に即していよいよ統計の整備とその充実につとめるとともに，統計の国際的協力をも力強くおし進めて，世界の平和と人類の繁栄に寄与することを深く期さねばならない。

本日，南国の香り高きこの土佐の地において，第13回全国統計大会を盛大に挙行するにあたり，われわれは決意を新たにして，統計家としての重責を全うすることを固く誓い，ここに次の通り決議しこれを宣言する。

1. われらは新時代における統計の意義と統計家の使命を自覚し，一致協力，幾多の困難を乗りこえて統計の

質的量的発展につとめる。

1. われらは統計の国際的重要度の増大にかんがみ，いよいよ統計の充実をはかるとともに，統計技術の研さんに励んで国際協力の達成につとめる。
1. われらは日夜の別なく統計を駆使する時代の到来を信じ，広く統計教育の実施と統計思想の普及につとめる。

講　　演

宣言のあと「日本農業の明暗」と題して，東畑精一東京大学名誉教授が，世界における宇宙開発と工業の発展これに関連した農業問題，日本における経済の高度成長と，農業就業者の減少，日本農業の機械化，日本農業の今後の進路などについて２時間にわたり記念講演があり参加者は熱心にメモをとつて聞きいつてた。

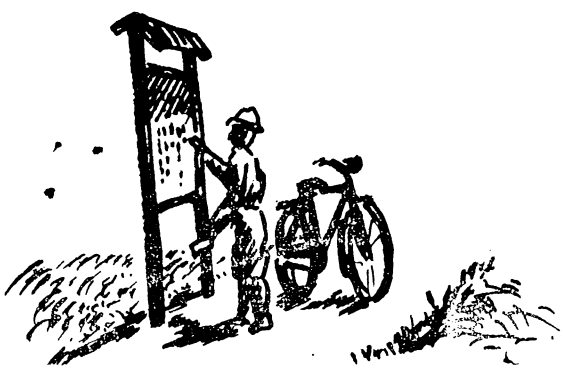
いよいよ大会のフイナーレ，全員が起立し高知市長の発声で万才三唱，広い会場に万才，万才という声が響きわたり，大会の幕は閉じられた。

大会終了後，四国各県の郷土芸能が被露され，高知県の太刀踊り，ヨサコイ節，徳島県の阿波踊り，愛媛県の伊予万才，香川県の吉津二頭獅子と次々と各県の代表的な郷土芸能がくりひろげられ，統計マンもしばらくは統計を忘れその芸術の香り高い，南国情緒豊かな郷土芸能に見いつていた。

もうすでに戸外は真暗になつている，高知県庁バンドの演奏する蛍の光のメロデーとともに，参加者は夜の高知市街へ消えて行つた。（生井）

本県関係表彰

団　体		
経済企画庁長官表彰	北茨城市	
個　人		
経済企画庁長官表彰	県統計課	佐藤正敏
全統連会長表彰	大子町役場	益子　利
統計図表全国コンクール	結城市立	菊山重代子
入選者　全統連会長賞	上山川中学校	吉森すみ子



グラフにみる

伸びゆく本県の工業

一国の経済発展をみる場合，その国の工業化がどの程度進んでいるかをみればわかるというように，県においてもその意味で工業の動向は極めて注目されるものであります。

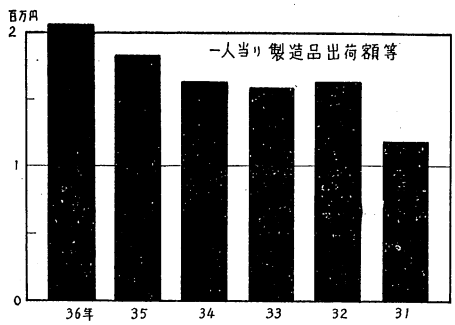
現在県が推進しております総合開発事業の大きな目的は，所得水準の低い農業県から脱却し，先進的な工業県に生れかわろうとしているものであります。

そこで近年における，本県工業の歩みを通産商の実施している工業統計調査の結果から眺めてみると，従業者数は31年の61千人から36年には 123千人となり６年間に約２倍になつている。一方製造品出荷額も31年の 740億円に対し，36年には 2,570億円と著しい増加を示しております。33年は前年にくらべ，従業者数，製造品出荷額ともに減少を示しておりますが，これは国の経済において32年の設備投資の行き過ぎ抑制の手段として，金融引締が行なわれたため，33年はいわゆるナベ底景気といわれた年だからです。

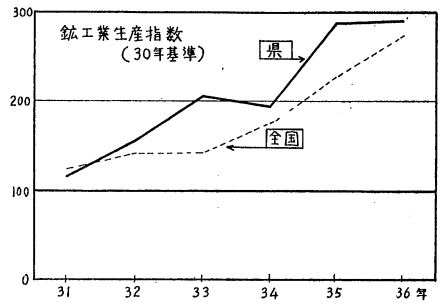
１人当りの製造品出荷額は31年の 1,200千円から年々増加しており，とくに34年から35年・36年にかけての増加は目立つている。これは過去における設備投資の効果が現われ，オートメ化された工場からどんどん製品が生産され，生産性が向上したものと考えられる。

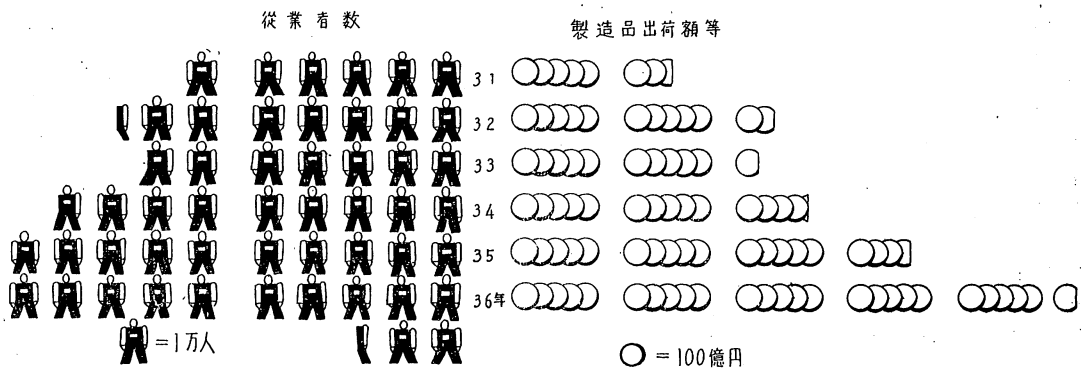
いずれにしても，このグラフでみるかぎり，本県の工業は急速にとはいえないが，順調に伸びていることは明らかであり，これが今後総合開発の実施によつて大きく伸展することが期待されます。（生井）

伸びゆく本県の工業



資料 工業統計調査（千人以上の事業所）





★統計資料案内★

<不定期刊行物>

資料名	調査年刊行年	発行者
土地人口		
都道府県人口の推計(改訂)	26～29年	総理府統計局
国勢調査結果報告(愛媛県)	35年	〃
〃 (香川県)	〃	〃
従業通学地に関する結果速報	〃	〃
(茨城県)	〃	〃
(栃木県)	〃	〃
(富山県)	〃	〃
(和歌山県)	〃	〃
(青森県)	〃	〃
商工		
機械工業設備調査報告	36年	通産省重工業局
鉄道車両等生産動態統計年報	36年	運輸省
改訂昭和35年基準指数の概要	37年	通産大臣官房調査統計部
農林		
漁業動態調査速報	36年	農林省統計調査部
農業調査結果報告(総括編)	〃	〃
経済		
家計調査年報	36年	総理府統計局
民間給与実態調査結果表	37年	国税庁
運輸通信		
郵政統計年報	36年	郵政省
鉄道統計年報	36年	日本国有鉄道関東支店
教育		
教育統計	79号	文部省調査局統計
学校設備調査報告書	36年	文部省
学校保健統計報告	36年	〃
鹿児島県工業の概況	36年	鹿児島県総務部統計課
群馬県個人商工業経済調査結果概要	36年	群馬県総務部統計課
奈良県農業基本調査結果概要	36年	奈良県総務部調査課
学校統計要覧	37年	神奈川県
香川県のすがた	37年	香川県
農業基本調査結果	37年	千葉県統計課
島根県民所得	35年	島根県
香川県統計年鑑	37年	香川県
県勢振興長期計画	37年	栃木県
兵庫県民所得	35年	兵庫県文書統計課
農業基本調査結果概要	36年	長野県統計課

資料名	調査年刊行年	発行者
学校基本調査結果速報	37年	千葉県統計課
工業統計調査結果表	36年	三重県
県民の家計	37年	香川県統計課
岩手県勢要覧	36年	岩手県
岡山県鉱工業生産指数	〃	岡山県
愛知県民所得統計表	25～35年	愛知県
長崎県勢要覧	1962年	長崎県総務部統計課
愛媛県鉱工業生産指数	35年	愛媛県総務部統計課
教育調査統計要覧	36年	和歌山県教育庁行政課
静岡県の県民所得	35年	静岡県企画調査部統計課
大阪府農業調査結果報告	1962年	大阪府総務部統計課
宮城の経済概況	36年	宮城県調査課
昭和36年輸出生産実態調査結果報告	36年	神奈川県
栃木県のすがた	1962年	栃木県総務部統計課
県勢要覧	1962年	佐賀県
統計からみた山梨のすがた	37年	山梨県総務部統計課
和歌山県統計年鑑	34年	和歌山県
米の生産額	37年	茨城県統計調査事務所
三重県鉱工業生産動態統計調査結果年報	36年	三重県
昭和37年産水稲うるち品種別作付面積農家数一覧	37年	農林省茨城統計調査事務所
奈良県統計年鑑	35年	奈良県
愛知県勢要覧	1962年	愛知県
新規立地工場建設並びに生産状況調査結果	37年	茨城県総合開発事務局
神奈川県の人口と世帯	37年	神奈川県企画渉外部統計調査課
長野県鉱工業生産指数	35年	長野県総務部統計課
人口と世帯数	37年	栃木県
鳥取県勢要覧	37年	鳥取県
モデル賃金調査結果	37年	東京商工会議所
経済情報	1962年	東京都経済局
水産業構造改善基本調査結果	37年	茨城県農林水産部漁政課
茨城県農林水産統計年報	1961年	農林省茨城統計調査事務所茨城農林統計協会
農業構造改善事業のしくみ	37年	茨城県企画課
国民健康保険事業状況	36年	〃
人口確定数	35年	茨城県
市町村長期計画参考資料	37年	茨城県地方課
初任給調査結果報告	37年	茨城県経営者協会

<定期刊行物>

資料名	月号	発行者
日本統計月報	10, 11	総理府統計局
消費者物価指数	9	〃
労働力調査報告	9	〃
指定統計調整報告届出統計月報	10	行政管理庁統計基準局
統計情報	11	〃
通産統計月報	11	通商産業大臣官房調査統計部
百貨店販売統計月報	9	〃
出荷在庫統計速報	11	〃
生産統計速報	11	〃
繊維統計速報	10～11	〃
紙パルプ統計速報	10	〃
日用品皮革統計月報	8～9	〃
ゴム統計月報	9	〃
労働経済指標	10	労働大臣官房労働統計調査部
窯業建材統計月報	8～9	通商産業大臣官房調査統計部
機械統計月報	9	〃
小売物価統計調査報告	9	総理府統計局
繊維統計月報	9	通商産業大臣官房調査統計部
人口推計月報	8	総理府統計局
機械器具流通統計調査結果表	6～7	通商産業大臣官房調査統計部機械統計調査室
郵政統計月報	8	郵政省
運輸統計季報	9	運輸省
家計調査報告	6	総理府統計局
建築動態統計月報	3～5	建設省計画局
毎月勤労統計調査結果報告	8	労働大臣官房労働統計調査部
都道府県展望	11	全国知事会
広報研究	12	全国広報研究会
経済統計月報	10	日本銀行統計局
コンクリートブロック	8～10	日本コンクリートブロック協会
国土情報	5～8	財団法人国土計画協会
自動車販売実績調	3～7	自動車工業会
統計	10～11	日本統計協会
政府刊行物月報	6	政府刊行物普及協議会編
統計あおもり	11	青森県統計課
みやぎ統計	11	宮城県統計協会
統計春秋	6～8	福島県統計協会
統計月報	10	埼玉県総務部統計課

資料名	月号	発行者
統計千葉	10	千葉県統計協会
統計東京	9～10	東京都総務部統計課
東京小売物価動向	10	東京商工会議所
東京卸売物価動向	10	東京商工会議所
東京都標準世帯家計調査報告	9	東京都
神奈川の統計	11	神奈川県統計協会
神奈川県の人口と世帯	8～9	神奈川県企画渉外部統計調査課
静岡県の統計	11	静岡県統計課
統計マン	7	富山県統計課
統計の目	7	福井県統計協会
統苑	10～11	岐阜県統計課
統計月報	11	愛知県総務部統計課
京都市統計情報	9	京都市行政局統計課
会議所月報	11～12	大阪商工会議所
大阪の統計	9	大阪府統計課
兵庫の統計	10	兵庫県統計協会
統計月報	10	鳥取県
島根の統計	11	島根県統計協会
統計の泉	10～11	広島県統計協会
香川統計だより	7	香川県統計課
えひめの統計	11	愛媛県統計協会
高知県経済指標	4	高知県総務部統計課
統計福岡	11	福岡県統計課
統計佐賀	10	佐賀県統計課
統計月報	9	長崎県総務部統計課
熊本の統計	8～11	熊本県統計協会
統計宮崎	5～8	宮崎県統計課
統計鹿児島	11	鹿児島県統計協会
県内一般預金増減額速報	10	日本銀行水戸事務所
茨城春秋	10	茨城春秋社
農業茨城	12	茨城県農業技術研究会
下館市報	9～10	下館市役所
生乳，乳製品の生産消費量に関する統計	6～7	農林省茨城統計調査事務所
専売統計月報	9	日本専売公社水戸地方局
茨城県気象月報	8～9	水戸地方気象台

経済スポット

経済の高度成長と農業問題 (2)

前号でお話ししましたようなことから，本県の所得水準の低位性というものは，労働生産性の低い第1次産業就業者が全国の割合に対して非常に大きく，反面労働生産性の高い非農林漁業就業者の割合が少ないということいいかえれば，本県の農業県としての特性を明確にしております。

ここで考えられることは，戦後の農業は技術の進歩，農法の発達とによつて，戦前とは比較にならないほどの発展を示しました。農業労働生産性は労働時間あたりでみて，昭和30年ごろまでは第2次産業に劣らない向上をとげております。

この結果，農家の消費水準は都市生活者よりも早く戦前水準を突破したわけですが，さらに鉱工業の進歩につれて，農業人口は第2次産業，第3次産業部門にも多く流入し，農家経済はかなり好調裡に推移したのでした。しかし，最近では，農業労働生産性の向上はようやく低迷期にはいり，農業人口が引きつづいて第2次，第3次産業に移りつつあるとはいえ，農業技術の進歩に一応のヤマがみえはじめたため，生産性の上昇テンポは緩慢化しております。これからの農業生産性を高めるために，そして，第1次産業の所得向上のためにどのような施策が必要なのか，大きな世論として論議されるのも当然でしょう。

ところでこうした現象を本県の統計はどのように説明しているでしょうか。

産業別労働生産性

	就業人口構成と所得構成 (%)				
	就業人口構成		所得構成		所得の全国に占める割合
	34年	35年	34年	35年	34年
	%	%	%	%	%
全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
第1次産業	58.6	56.4	33.2	31.5	3.7
第2次産業	15.6	17.3	24.9	27.6	1.4
第3次産業	25.8	26.3	41.9	40.9	1.6

この表をみますと，昭和35年では第1次産業就業人口構成は総就業人口の56.4%の人口を擁しながら，所得構成では31.5%の所得しか確保できず，依然として低い生産性のもとにあります。

これに対し第2次産業になりますと17.3%の労働力をもつて，27.6%の所得を生み出し，第3次産業にあつては，26.3%の労働力投下によつて40.9%の所得を得ている結果になります。

このように第1次産業就業人口の占める割合が大きいため，本県の平均所得をいちじるしく左右していることは否定できない事実でありましょう。

昭和36年農業基本調査結果報告によりますと，県内総農家世帯数は 209,118世帯でこれは本県総世帯数の51.1%にあたります。この農家世帯について経営規模別にみますと次表のとおりです。

経営耕地面積広狭別農業事業体数

経営規模別 / 年次	総数	5a～10a	10a～30a	30a～50a	50a～1ha	1ha～1.5ha	1.5ha～2ha	2ha～3ha	3ha以上
	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸
昭和30年	213,517	4,390	26,564	26,649	62,928	52,920	28,080	11,309	677
昭和34年	210,832	3,868	25,211	25,818	60,989	53,878	28,892	11,482	694
昭和36年	209,118	3,331	24,698	25,044	59,271	53,474	29,971	12,534	795
増減	△ 4,399	△ 1,059	△ 1,866	△ 1,605	△ 3,657	554	1,891	1,225	118

(注) 増減は昭和30年との比較　　△印は減少を示す

この表をみてもわかりますように0.5ha～1.0haの階層が112,344戸つまり全体の53.7%を占めております。これを昭和30年の120,531戸にくらべると8,187戸の減少つまり離農という現象が生じております。

これに反し，1ha以上の農家数は次のような増加を示しております。

1ha 以 上 農 家 の 推 移

経営規模 / 年次	総数	1ha ～ 1.5ha	1.5ha ～ 2ha	2ha ～ 3ha	3ha 以上
	戸	戸	戸	戸	戸
昭和30年	92,986	52,920	28,080	11,309	677
昭和36年	96,774	53,474	29,971	12,534	795
増減	3,788	554	1,891	1,225	118

また，これを専業・兼業別に考察してみますと，農業を専業とする農家は107,614戸で51.8%，兼業農家は101,504戸で48.5%を示しており，これを昭和27年に比較してみますと，専業農家は34,428戸の減少，兼業農家は30,961戸の増となります。

さらに昭和30年以来豊作が5年も続き農家の収入は毎年ふえておりますが，技術革新の波に乗つた経済の成長はそれをはるかに上回つております。つまり，昭和35年県内農業生産所得は570億円で，前年の520億円にくらべ8.3%の増加であるのに対し，県内第2次産業の生産高は570億円で前年の440億円にくらべ27.8%と大きな伸長を示しております。

結局こういつた結果農業所得と他産業との所得の開きは年々大きくなり，そのため農家の他産業への進出という現象が活発となり，特に上述の統計にみられますように1ha未満の農家にそうした現象がはげしいということです。

しかしながら，終戦直後の農業経済は非常に良好であつたことは，今までお話ししたとおり他産業に比べ戦災による被害が軽微であつたこと，飢饉的食糧事情から農産物のヤミ価格が他商品にくらべ相対的に高かつたことなどがあげられます。

終戦時の県民所得がありませんので，ここに国民所得を参考までに引例しますと，他産業の実績国民所得がいずれも戦前の半分以下に減つているのに，農林水産業だけは戦前の28億5,400万円が，昭和21年度には32億2,000万円（いずれも実質国民所得）に増加しております。このことを見ましても終戦後の農林ブームの一端を現わしていることがわかります。

終戦時の産業別国民所得
（単位100万円指数9～11年＝100）

		戦前（昭和9～11年平均）	昭和21年度
農林水産業	名目所得	2,854	140,101
	実質所得	2,854	3,220
	同上指数	100.0	112.8
製造業鉱業	名目所得	4,426	95,074
	実質所得	4,426	2,185
	同上指数	100.0	49.3
その他の産業	名目所得	7,098	125,680
	実質所得	7,098	2,896
	同上指数	100.0	40.8

しかし，最近俗に「三チヤン農業」と呼称されますように「ヂイチヤン」，「バアホヤン」，「カアチヤン」によつて構成される専業農家の多いことです。

つまり従来のあととり息子が離村，あるいは離農して都市に就職し，オヤジ夫婦で農業を行なつているような場合です。

このようなケースには，やがて第二種兼業農家へ，さらに脱農の途をたどるものも少なくないでしよう。

したがつて，各市町村においても，このような農村自体の実態といもうのを考慮に入れて，農業構造改善事業計画を推進していかなければ農業の発展もなかなか困難でしよう。その前途は茨の道であり，多くの課題が山積しているわけであります。

（県統計課済経統計係長　横須賀　弘）

市　町　村　の　横　顔

水　戸　市

山　本　市　長

概況

水戸は，水戸黄門漫遊記によつて親しまれている徳川光圀(義公)の城下として発達した町で史の都，梅の都ともいわれる。市街地が馬の背のような丘陵地帯にあるので，今のところ他の観光地のような華やかさはないが心で味わう風趣の都であり，多くの史蹟を巡つて往時を偲べば，そこには新しい感激が胸をうつことであろう。

水戸の地名は，大むかし水路の中心で船の出入が輻輳した港であつたために「ミナト」が転訛して「ミトと」なつたとも伝えられている。

今から約 770余年前の鎌倉時代初期，馬場小次郎資幹が，館城を築いたのが水戸市街地のおこりで，そののち江戸氏，佐竹氏の城主時代を経て，慶長14年藩祖徳川頼房が御三家の一つとして封ぜられるに及んで，城市の大改修を行ない，西方にもその範囲を拡大する一方，城の東部にあつた湿地を埋めて市街地をつくり，面目を一新して，常陸国中第一の邑都となつた。その後第二代光圀以来歴代藩主相ついで城下町の発展につとめ，今日に見るような水戸市の基礎を築いた。

明治維新後，藩はそのまま存続したが，明治４年の廃藩置県で水戸県が置かれまもなく茨城県に改められたが当時の水戸は茨城郡の（のち東茨城郡）に属し，明治22年４月１日市制，町村制の施行により，茨城県最初の市となつた。その際旧上市，旧下市のほか接続地の常磐，細谷，吉田，浜田４カ村の一部を併せ，人口25,591人の都市となつたが，政治，経済，文化，各種交通機関の中心地として伸展の一途をたどり，昭和８年常磐村を合併し，一大躍進をみようとしたが，たまたま20年８月２日払暁の戦災で市の８割を烏有に帰し，人口も一時５万人台を割るに至つた。翌21年天皇陛下には，とくに戦災状況を御視察あそばされ，22年新春の御製に

たのもしくよはあけそめぬ水戸の町
　　うつつちのおともたかくきこえて

と御発表があつた。しかして市民の復興意欲はいよいよ旺盛を極め，加えて隣接村の合併も進展し，人口も14万６千人を突破し，名実共に今日のような大水戸市としての発展を見るに至つたのである。

産　業

初めて水戸城の築かれた頃は，極めて小規模なものであつたが江戸氏の入府後は逐次，地方の中心として発展し，佐竹氏さらに徳川氏の入府により城下町としての条件が備わるに至つたが，特種の産業は少なく，今日におけるがごとき純然たる消費都市として生長した。

今日その就業人口を見ると第３次産業就業者が全体の55.6%を占め，次に第１次産業就業者が24.6%と２位を占め，第２次産業就業者が19.8%と最下位にあることでも消費都市の性格が裏付けられるのではあるが，しかしこれを更に細分すると就業者の約半数が農業及び商業従事者であるところからみて本市の産業は農業と商業で，いずれも県下一の事業体をようし中でも商業は近代的都市美の観点から南町，泉町，大工町には燦然と輝く延長約 1,300メートルに及ぶ商店街に「シルバーアーケード」が建設され，街路水銀灯など近代照明の粋を集め，随所に灯る広告ネオン灯とともに美しい夜景が，ようやく県都にふさわしく見られるようになつた。

しかし本市も首都圏整備法に基づく市街地開発区域として指定され，また近郊東海村を中心とする一帯は，わが国原子力長期開発の拠点として将来ますますその拡大が予想されること等を考え合せたとき，本市の就業構造もまた相当変化するものと思われる。

教育文化

俗に水戸黄門でとおる二代藩主光圀は，学問識見ともにすぐれた名君とうたわれ，大日本史をはじめ多くの文化事業を世に残したが，特に大義名分を明らかにすることに力を注いだ。また光圀は封建の世の支配者には珍らしく庶民的な人物として知られているが，講談水戸黄門漫遊記は，世俗的にこの点を強調したものらしい。亡くなつた当時の落首に次のようなものがある。

天が下　二つの宝尽きはてぬ
　　佐渡の金山　水戸の黄門

と死をいたむ民衆の気持がうかがわれておもしろい，光圀と並んで名君といわれる第九代藩主斉昭（烈公）の弘道館設立による子弟教育，水戸学の完成など文教の府として全国より注視の的で，明治維新後も，その伝統は水戸の特長の一つであつた。戦災により一時その姿は消えたが，その意欲は消失することなく往年の文教の府を更に現代に顕現しようと努力している。

なお本市の産業，教育文化等その他すべての面に深くつながりをもつこの歴史的な過程を究明して市民の郷土愛を高揚し，併せて将来における市勢発展に寄与するため昭和35年より水戸市史の編さんに着手したことは，まことに時宜を得たものというべく，来年度に上巻が発刊されることをひとしく期待するものである。

（水戸市役所　白井　記）

人　間　雑　話 (7)

茨城大学教授　塚　本　勝　義

人間はつまらぬことを喜ぶ。だから，つまらぬことでも心配する。悲喜哀歓，みんなつまらぬことで左右される。事の重大性は，その人の気持で決められる場合が多いようだ。原子爆弾を持ちまわす話には顔色を変えないが，つり銭が一円不足すると，まつさおになるのが人間らしい。

○　○　○　○

若くして亡くなつた詩人中原中也は奔放な人間だつた。彼が十八歳のとき，恋人長谷川泰子に逃げられた。逃げた泰子は彼の親友小林秀雄の許にはいり込んだ。むき出しな言い方をするなら，中原は恋人を小林に奪われたのである。この事件は中原の胸に相当こたえたらしい。その打撃が，いかに深刻であつたかは，この事件に触れることを好まなかつたことに依つて知られる。

目まいするほどの打撃を受けると，どんな人でも，その打撃を語りたがらぬ。ちよつとさわつただけでも苦しいからだ。語る元気もなくなつてしまう。

よく俺は若い頃，苦労したんだよ――なんて楽しそうにホラを吹く人があるが，愉快に語れる苦労なんだからどうせ大した苦労ではない。それが，骨をくだくほどの苦労であつたなら，思い出すだけでもつらいはずだ。

深刻な苦労，深刻な心配，深刻な失望――といつたことに出あえば，人間は沈黙する。つまらないから俺は死ぬなんてしやべる人間に限つて，なかなか死なぬ。本当につまらなさを実感した人だけが突然この世に決別する。

かかる人間性は〔よろこび〕の場合も同じだ。ほんとにうれしいと，ただ涙を流すだけだ。〔あなたにお逢いすることができて，あたし，とつても嬉しいのよ〕なんていう言葉は信用できない。こんなきれいな言葉よりも一滴の涙の方が，ずつと真実がこもつている。

○　○　○　○

あの人は情熱がある――と言つて，手ばなしでその情熱を肯定する。ところが太宰治は人間失格の中で，情熱とは相手の意見を無視する感情だとケチをつけている。「文句言つたつてかまうもんか，やれ，やつてしまえ」と言つた情熱は，たしかに暴力的感情だ。

○　○　○　○

恋愛期の言葉と結婚期にはいつてからの言葉では，受けとり方が違つてくる事情を三浦朱門は「二人の妻」で具体的に書いている。恋愛期における助言は百パーセントありがたい。うつかりすると涙だつて流れかねない。それこそ純粋愛の結晶だと骨身にしみる。ところが結婚してからの助言はうるさい。言われれば言われるほど癪にさわり，つい「だまつてろ！」なんてどなつてしまう。言葉ばかりではない。やることだつて同じだ。恋愛期の間抜けは朗らかで楽しい。笑いの種であり，思い出の種でさえある。残念ながら，夫婦になつてからの頓馬は腹立たしくてたまらぬ。何の因果でこんな「がらくた」と一緒になつたのか，と情なくなる。言うことやることは全く同じなんだが，感じ方は完全に逆になる。だから人間関連はむずかしい。むずかしいから面白い。理屈屋は悲劇と喜劇を区別して説明するが，それは筋を通すための理屈であつて，現実的には（ひとりの人間においては）ごちやごちやに入りまじつてるというのが本当だろう。

○　○　○　○

吉川英治のあとを追うようにして正宗白鳥が亡くなつた。純文学一本槍で貫いたから大衆的人気はないが，大物だつた。その出発は明治四十年だ。六十年に近い作家生活となる。青年期から老人のようであり，老人になつてからも青年のような持ち味を失わなかつた。白鳥のことを考えだすと，きまつて詩人高村光太郎を思い出す。白鳥は六十年間，ひとつも自己の姿勢を変えていない。光太郎は詩壇の動きを敏感に反映してカメレオンのように変わつている。変わるのも成長の一現象であろうからそれが悪いなどとはいわぬ。しかしながら，めまぐるしく変わられると，いつたい，どこが本当のところなんだと言いたくなる。白鳥のように変わらないと，退屈する人もあろうが，どこか頼もしく感じられる。

どこの職場にだつて白鳥型と光太郎型がいるだろう。「あの人は，この課のヌシだ」なんて言われている人は白鳥型だ。十年一日の如く黙々として動いている。俗にいう栄進組には入らないが，いざというとき信頼される。なくてはならぬ存在だ。光太郎型は，にぎやかで，華かでもある。進歩的にも見えよう。だが，にぎやかな割りには本当の仕事はできないようだ。といつて，白鳥型だけでは職場の空気が淀んでしまう。景気のいいラツパ吹きも必要だ。人さまざまが寄り合つて，さまざまな動きをするので，いわゆる活気が盛り上がるのだろう。